

「みんなの SDGs」 COVID-19 と SDGs シリーズ
2021 年度第 2 回オンラインセミナー
希望するすべての人にワクチンを：だれ一人とり残さない SDGs
実現のために【日本人編】
報告書

2021 年 7 月 30 日

1. 背景

2021年6月に行われたセミナーでは、「希望するすべての人にワクチンを：だれ一人取り残さないSDGs実現のために」と題したセミナー・シリーズの第一弾として、「外国人編」を行いました。今回は、第2弾として、「日本人編」として地方自治体から、様々な理由によりワクチンが接種にアクセスできないホームレス、ネットカフェ難民らの日本人に関する課題を議論したいと思います。

2019年1月の厚生労働省のデータによると、ホームレスが確認された地方公共団体は、275市区町村であり、確認されたホームレス数は、東京の1126人を筆頭に、大阪1064人、神奈川899人の4,555人であり、次第に減少傾向であるものの今後の経済不況の中、増加する可能性もあります。65歳以上の高齢者へのワクチン接種が開始されていますが、厚生労働省は、2021年4月30日「各自治体は、居住が安定していないいわゆるホームレスの方や事実上ネットカフェに寝泊まりしているワクチン接種希望者へ、いくつかのルートや関係機関の協力を得て周知を行うこと」を通知しています。

しかしながら、現時点の高齢者への接種がスムーズに行われているわけではなく、ホームレス等の方らへのワクチン接種が積極的に行われているわけではありません。今回のセミナーでは、いくつかの場所で行われているグッドプラクティスを中心に、「取り残されそうな人々へ」の課題と支援に関しての検討を行いたいと思います。

2. 開催日時 2021年7月30日（金） 18:30-20:30 （マイクロソフト Teams によるオンラインセミナー）

3. プログラム

開会あいさつ：稲場雅紀氏（アフリカ日本協議会理事）

第一部：ホームレス等の人々に対してのワクチン接種に関しての情報提供（各20分）

1) ホームレスの人々への新型コロナウイルス感染症のワクチン接種：

厚生労働省健康局健康課・予防接種室 大石亜美様

2) 豊島区におけるグッドプラクティスとホームレス状態の人々へのアンケート調査

世界の医療団ハウジングファースト東京プロジェクト担当 武石晶子様

3) 山谷における実態と支援活動（大阪あいりん地区の報告も含む）

山友会副代表 油井和徳様

第二部：モデレーター 仲佐保氏（シェア＝国際保健協力市民の会共同代表）

・ホームレス、ネットワークカフェ難民らへのワクチン接種の今後の課題及び対策について
パネル形式での意見交換を行います。参加者からの質問にも一部答えます

閉会あいさつ：池上清子氏（プラン・インターナショナル・ジャパン理事長）

岩本 皆さまこんばんは。みんなのSDGs 主催オンラインセミナーにご参加いただきありがとうございます。今回は『希望するすべての人にワクチンを、誰一人とり残さない SDGs 実現のために』ということで、前回の外国人編に引き続き、日本人編ということでお送りしたいと思います。私は総合司会を務めさせていただきます、国立国際医療研究センター国際医療協力局の岩本と申します。よろしくお願いいたします。まず、開催のあいさつということで、アフリカ日本協議会理事の稲場雅紀さんにお話しいただきます。よろしくお願いいたします。

稲場 よろしくお願ひいたします。今、紹介をいただきましたアフリカ日本協議会の理事、稲場雅紀と申します。本日は、オリンピック開催中、一方でコロナの感染が非常に拡大しているということで、二つの大きな課題があるわけですが、にもかかわらず、多くの方々にご参加をいただきまして大変ありがたく思っています。まず、「みんなのSDGs」について簡単にご説明をしたいと思います。マルチステークホルダーでSDGsを推進する枠組みということで、2015年のSDGs策定以降、SDGsに関わる課題の追求、また掘り下げのために様々なシンポジウムを開催してきました。「みんなのSDGs」のウェブサイトにはシンポジウムの記録がありますので、ぜひごらんいただければと思います。

本日は『希望するすべての人にワクチンを、誰一人とり残さないSDGs 実現のために』日本人編と題しまして、特にホームレスの状態にある人々におけるワクチン接種がどうなっているのか、また、コロナやそれに伴う社会的、経済的变化がホームレスの状態にある人々や生活に困窮している人々にどんな影響を与えているのかということについて、3名の方々からお話しいただき、パネルディスカッションを行うということになっています。現在、オリンピックが開催されておりますが、その一方でコロナの状況が非常に深刻になっています。オリンピックのあと、われわれは現実本当に直面することになるわけですが、そのときに経済的なダメージも含めて考えていく必要があるかと思っています。

そのときに特に考えなければならないのが前回の外国人、そして今回のホームレスの状態にある人々など、取り残されがちな人々の存在ということになるかと思っています。私どもも、実は脆弱性と日本の保健医療アクセスについての調査というのをこの5月、6月に行いましたが、全体的な結果といたしましてありますのは、日本では脆弱性が強いほど保健・医療へのアクセスについて労力や時間などがかかる、コストが非常に高い状況になるということです。脆弱性が強い人々を取り残しがちな制度になってしまっているということです。また社会、文化、経済的な問題も考える必要があります。また、特に今回のワクチンは、特に若年層において副反応が強いということですが、若年層においては特に不安定な非正規雇用で、既に解雇の危機にさらされている人々もいるわけです。

こういった人々にとっては、例えばワクチンを受けるために休みを取るということも難しいというような事実もあるかと思っています。これは、検査の問題も同じかなというふうに思っております。こうしたことも含めて、希望する人々がワクチン、診断、治療を受けられる

体制というようなものをどのように作っていくのかということについて、今回のシンポジウムがこれを考えていく一助になるといいかなと思っています。これがコロナ以降のユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現に一石を投じることを期待するものです。どうもありがとうございます。

———第一部：講演———

岩本 それでは第1部を始めたいと思います。2部構成になっておりまして、第1部では、ホームレス等の人々に対してのワクチン接種に関しての情報提供ということで、3人のかたにお話しいただきます。最初はホームレスの人々へのワクチン接種に関して、厚生労働省健康局健康課予防接種室、大石亜美さんにお話しいただきます。すみません。ちょっと前後しましたが、ご自由に質問、コメントをチャットにご記載ください。第2部でパネル形式のディスカッションのときに、いただいた質問、コメントに関して取り上げてディスカッションをしたいと思っています。聴きながら、あるいはご講演を聴いた後、チャットをご活用いただければと思います。それでは大石さん、よろしくお願いいたします。

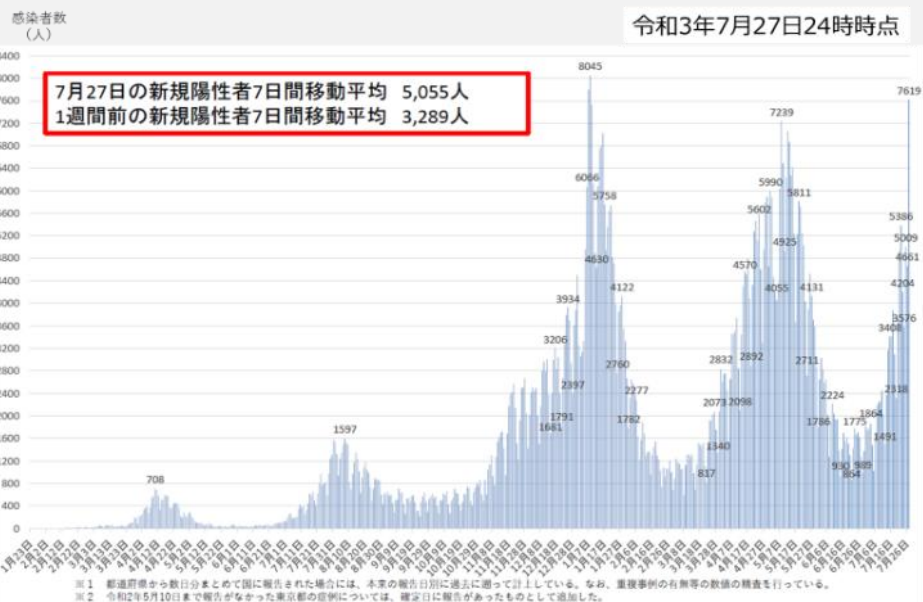
大石



厚生労働省予防接種室の大石と申します。本日は、このような貴重な機会をいただきましてありがとうございます。なかなか説明が拙い部分もあるかと思いますが、いただいたこの機会に、われわれとの取り組みをぜひ皆さまにご紹介させていただければと思います。それでは、スライドをめくってください。

0. 新型コロナウイルス感染症の動向

新型コロナウイルス感染症の国内発生動向

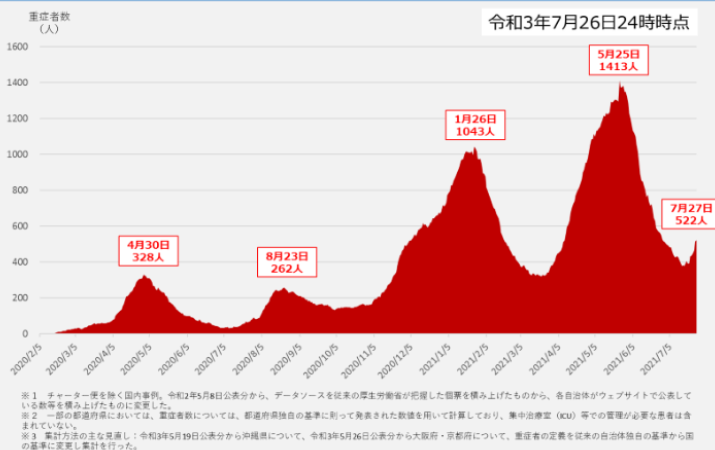


2

まず、ワクチン接種の前に、簡単にコロナ感染症の動向についてご説明させていただければと思います。日々いろいろ報道されていたりするので、皆さまもご存じかと思いますが、新型コロナウイルス感染症、年明けから発生しまして、増減の波を繰り返しながらまだ感染が収まっていないという状況でございます。特に最近だと東京も、きょうは3000人超という数の感染者が出ていたりするなど、ちょっと感染拡大の局面を迎えているというところがございます。

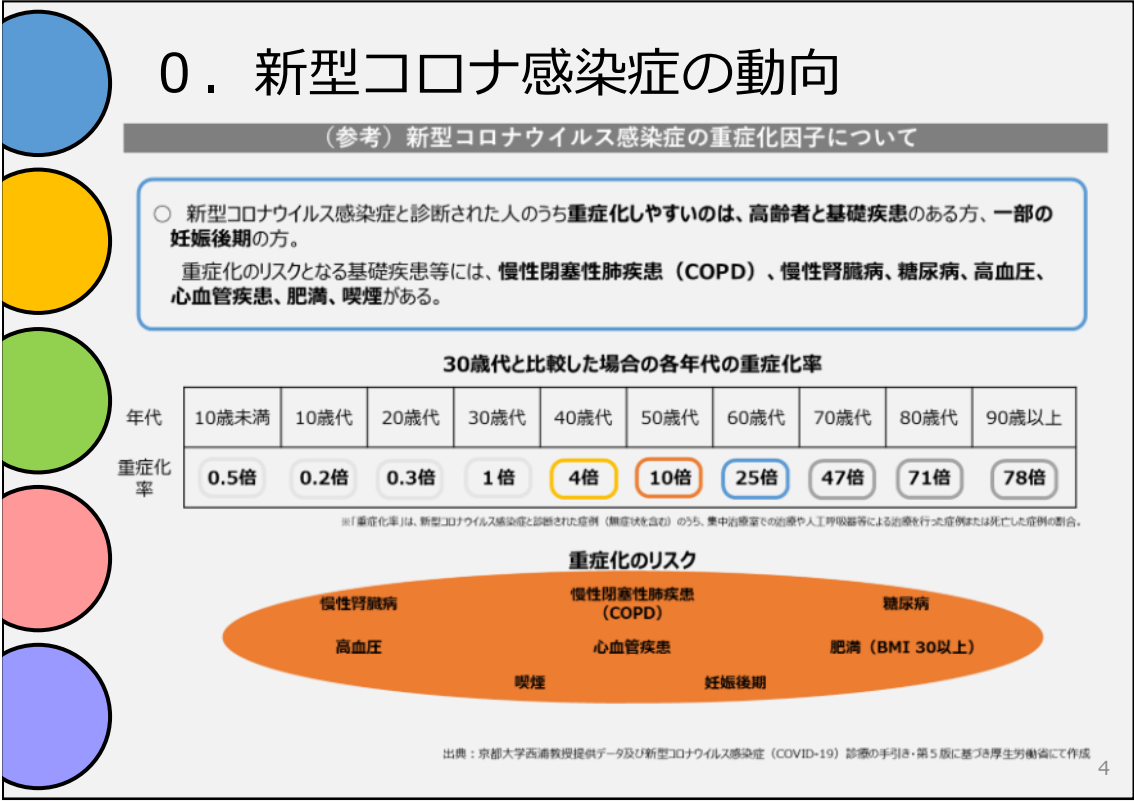
0. 新型コロナウイルス感染症の動向

新型コロナウイルス感染症の重症者の推移



3

次のスライドに移りまして、この新型コロナウイルス感染症、重傷者数も波があるんですけども、なかなか減少していないという状況でございます。一時期減ったんですけども、直近ちょっと右肩上がりの状況になっているかなというところでございます。



次のスライドに移りまして、この新型コロナウイルス感染症の特徴でございます。この新型コロナウイルス感染症、いろいろな方に症状は出ているんですけども、重症化しやすいとされているのが高齢者の方と基礎疾患のある方、一部の妊娠後期の方となっております。下の表にあるんですけども、年齢ではっきりと重症化率が上がってしまうということが明らかになっているところです。また、重症化のリスクとして、下に挙げているような基礎疾患も関わっておりまして、逆を申し上げますと、こういった方々はコロナに感染するリスクが高いのでワクチンの接種を特にお勧めしたい方々ということになります。

1.新型コロナワクチン接種の概要

➤ 12歳以上を対象に、新型コロナワクチン接種を順次実施

【接種の概要】 ※7月27日時点

1. 対象者
市町村（特別区含む）の区域内に居住する2歳以上の者

2. 実施期間
令和3年2月17日から令和4年2月28日まで

3. 使用するワクチン
 ① ファイザー社ワクチン（主に医療機関、集団接種会場で使用）
 ② 武田／モデルナ社ワクチン（主に大規模接種会場、職域接種で使用）
 ※どちらも2回接種が必要



5

次のスライドに移ります。このように新型コロナウイルス感染症が拡大している中にありまして、新型コロナワクチン接種を昨年の2月から順次始めているところでございます。対象者は12歳以上の方となりまして、実施期間、ここは自治体のスケジュールに実際はよるんですけども、大枠としては来年の2月末までと今のところなっております。ワクチンとしてはファイザー社のワクチンとモデルナ社のワクチンをそれぞれ使っていて、どちらも2回接種が必要なものとなります。

1.新型コロナワクチン接種の概要

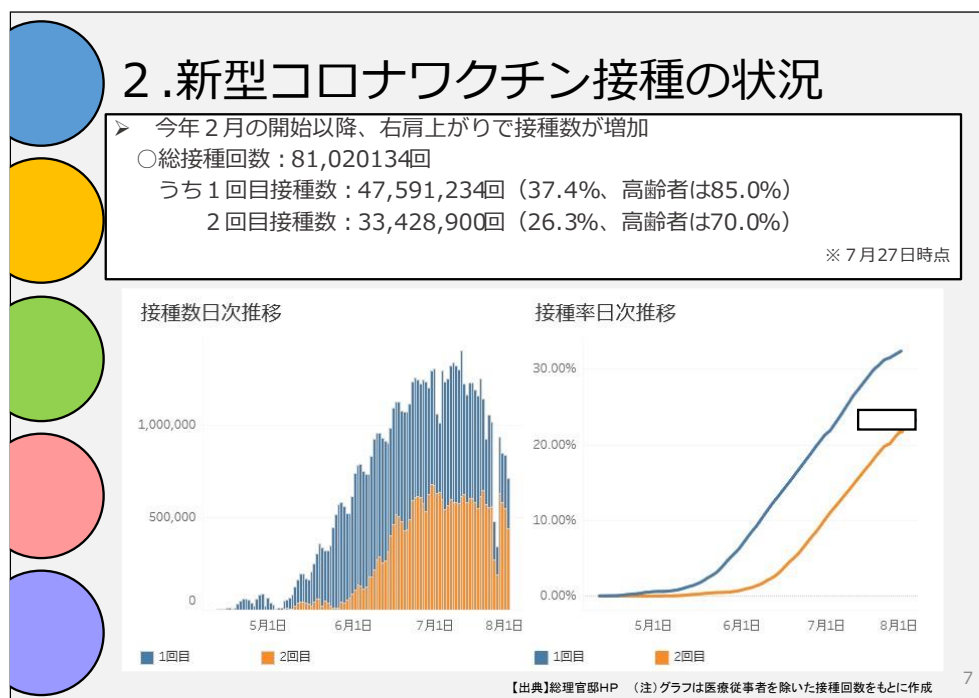
➤ 今回の新型コロナ接種は、過去に例のない規模で実施するもの
 ➤ 定期接種は子どもや高齢者が対象だが、今回は2歳以上の住民全員が対象
 ➤ 国、都道府県、市町村、医療機関など、関係者の総力戦となっている

【通常の定期接種】	【新型コロナワクチン接種】
1. 目的 <u>平時</u> の疾病のまん延予防	1. 目的 <u>緊急時</u> の疾病のまん延予防
2. 対象者 一定年齢に該当する <u>子どもや高齢者</u> が対象	2. 対象者 12歳以上の <u>住民全員対象</u>
3. 実施期間 対象年齢ごとに <u>毎年実施</u>	3. 実施期間 約1年間という決められた <u>一定期間で実施</u>
4. 接種会場・接種者 主に <u>かかりつけの医療機関</u> で実施 接種を行うのは <u>医師や看護師</u>	4. 接種会場 医療機関のほか、市民会館や民間施設、職場など <u>様々な場所に接種会場を特設</u> し実施。 接種を行うのは医師や看護師のほか、 <u>歯科医師や救急救命士</u> なども参画

6

次のスライドに移りまして、今回の新型コロナワクチン接種の特徴について。今までの定期接種は主にお子さん、赤ちゃんのときに打つもの、あと高齢者の方のもあるんですけども、新型コロナワクチン接種は定期接種と比べまして非常に対象となる方が多い、12歳以上の住民全員が対象となるということがございます。また、その定期接種ですと、決められた年齢ごとに毎年実施しているんですけども、今回は約1年間といった決められた一定期間で12歳以上全ての方に打っていくということになっております。また、接種会場につきましても、普通の定期接種だと医療機関とかかかりつけ医のところで打っていただくことが多いんですけども、今回は各自治体が接種会場を設置したりだとか、職域として職場で打っていただくとか、本当にいろいろな形で接種を行っているところでございます。

また実際、打つ人についても、今までだと医師とか看護師がやっていたところなんですけれども、打ち手の確保というところで今回は歯科医師とか救急救命士など、普段、ワクチン接種を行っていない方にもご協力いただきながら行っているところです。まさに国や都道府県、市町村の医療機関、その他の方々、関係者全ての方の総力戦のような形で、日々進められているというところでございます。次のスライドに移ります。



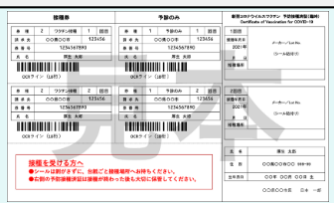
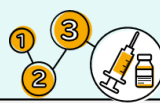
新型コロナワクチン接種の状況なんですけれども、今年の2月の開始以降、右肩上がり接種率が増加しているというところでございます。直近ですと、すみません、資料が7月27日時点なので、最新値はもうちょっと数が増えているんですけども、27日時点だと約8000万回分打っていただいている、高齢者につきましては、既に1回目接種している方だと85パーセント、2回目接種完了している方は70パーセントということで、本当に皆さまにご尽力いただいているおかげで、接種がなんとか進んできているというところでございます。次のスライドに移ります。

3.新型コロナワクチン接種の流れ

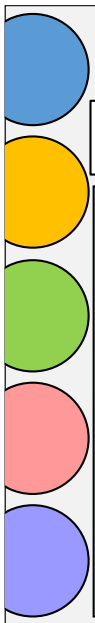
- 接種に当たっては、市町村から発行される接種券が必要
- 接種券は、住民基本台帳をもとに市町村が発行し、対象者に郵送

【基本的な接種の流れ】

- ① 市町村から接種券が届く
- ② 市町村の接種スケジュールを確認し、自分の順番がきたら接種会場を予約する
- ③ 予約当日、接種券と本人確認書類を持参して、接種を受ける

新型コロナワクチン接種の流れの紹介になります。まず接種に当たっては市町村から発行される接種券が必要となります。こちらを基に接種される方を把握して、最後、接種記録として市町村に残す、そのためのキーのようなものになっております。この接種券については、住民基本台帳を基に市町村で発行して対象者に郵送するという形になっております。実際、接種を受けていただくに当たっては、大きく三つステップを踏んでいただくことになりまして、まず市町村から接種券が届くのでそれを受け取っていただきます。この右に映っている見本と書いているのが接種券でして、もしかすると届いている方もいらっしゃるかなと思います。私も先日、無事に届きました。2番目が市町村の接種スケジュールです。今回のワクチン、どうしても限られた数を徐々にお渡ししているような状況でして、接種スケジュールを決めながら、各市町村で接種を進めていただいているところです。接種スケジュールにつきましては、まず、医療従事者の方、高齢者の方、その次が基礎疾患の方とか高齢者施設で働く方、その次に一般の方というのが大きな流れになるんですけども。それぞれの枠に沿って順次接種を進めていくということになっておりまして、自分の該当する順番が来たら接種会場に予約を入れて、当日、接種券と本人確認書類を持参して接種を受けるということになっております。こちらが大きな流れとなっております。次のスライドに移ります。



3.新型コロナワクチン接種の流れ

➤ ホームレス等の方が接種を受ける場合、各場面で様々な支障が想定される

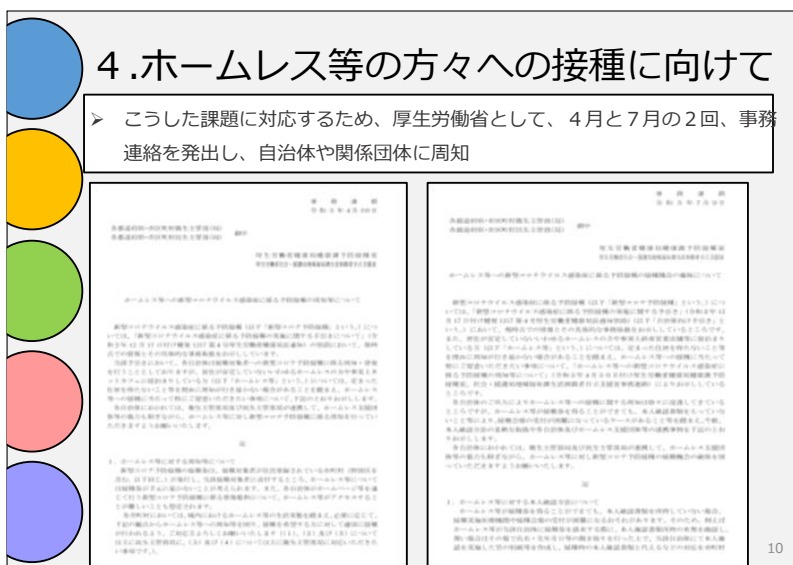
【基本的な接種の流れ】

- ① 市町村から接種券が届く
⇒住民票のない方や、どこに住民票があるか不明な方は、
接種券が市町村から届かない
- ② 市町村の接種スケジュールを確認し、
自分の順番がきたら接種会場を予約する
⇒接種のお知らせが届かず、ワクチン接種の情報を知らない
携帯電話などを持っておらず、接種の予約ができない
- ③ 予約当日、接種券と本人確認書類を持参して、接種を受ける
⇒本人確認書類を持っていない

9

この大きな流れがあるんですけども、ホームレスの方々、ホームレスの方々というのはいわゆるホームレスの方以外にネットカフェで暮らしている方とか、いろいろいらっしゃるかなと思うんですけども。そういった方々が接種を受ける場合、それぞれ三つのステップでさまざまな支障が想定されるというところでございます。まず 1 個目の接種券についてなんですけれども、住民票の住所に送ることになっていて、どうしても住民票のない方とか、どこに住民票があるのか不明な方については、今いる場所に接種券が届かないので、市町村に申請をして接種券を入手していただく必要があるというところになっております。

二つ目の接種スケジュールを確認して、自分の順番がきたら接種会場を予約するという部分についても、そもそもの接種のお知らせがなかなか届かなくて、ワクチンの接種に関する情報自体を知らないといったことや、予約を取るに当たっても予約を取るツール、多くの自治体で電話やインターネットでの予約を受け付けているんですけども、そういったところになかなかアクセスができないという課題もございます。3 点目についても予約当日、接種券と本人確認書類、打ち間違いとかを防ぐために本人確認書類も併せて持ってきていただくこととしているんですけども、本人確認書類を持っていなくて、受付で止まってしまふといったことも考えられるところでございます。それぞれの課題に対応するために国としても取り組みを徐々に進めているところでございます。



次のスライドに移りまして、厚生労働省としてもこういった課題に対応する必要があるということで、4月と7月の2回に分けて事務連絡を発出しておりまして、自治体や関係機関に必要な周知を図っているところでございます。詳細な内容、次のスライドから説明させていただきます。

4 .ホームレス等の方々への接種に向けて

➤ まず4月の事務連絡において、接種券の発行や接種の情報提供についてご協力いただくよう、自治体の衛生主管部局（ワクチン担当）と民生主管部局（ホームレス担当）に周知

【4月の事務連絡のポイント】

- ◆ 例えば以下のような方法で **接種を周知**し、接種を希望する場合は **市町村の窓口**に相談するよう案内すること。
 - ・ 巡回相談時等の機会を捉えて、ホームレス等の **起居場所等を訪ねて周知**を行う
 - ・ 住居喪失者等が **相談窓口に来所した際に周知**を行う
- ◆ **ホームレス等の方が窓口に来所し、接種を希望する旨の申し出があった場合は**、住民登録の有無の確認を行うとともに、住民票所在地の市町村に対して申請を行い、**接種券の再発行を受けるよう調整すること**。
- ◆ 住民登録がなされていない方や、住民票所在地の市町村から接種券の再発行を受けることができないやむを得ない事情がある方等については、**相談を受けた市町村において接種券の発行を行うこと**。

※ なお、接種券については、当該ホームレス等に接種実施日より前に送付することが難しい場合などにおいては、接種会場へ配布を行うことも考えられること。

- ◆ 必要に応じて、**ホームレス支援団体等とも連携して、接種に係る手続の援助**を行うこと。
- ◆ また、自立支援センター等の入所者が接種を希望する場合には、施設ごとに接種希望者をとりまとめて接種券の発行を行うことや、巡回接種により施設内で接種を行うことなどが考えられること。

11

まず4月の事務連絡です。4月の、高齢者接種が本格的に始まる前のタイミングに出したのですが、まず、課題となるのが接種券の発行や接種の情報提供という部分になるかと思いましたが、その点について、自治体のワクチンを担当している衛生主管部局と、ホームレ

11

スの方への支援を担当している民生主管部局に周知させていただいたところでございます。

その主なポイントが下の四角の部分にあるんですが、例えば以下のような方法で接種を周知し、接種を希望する場合は市町村の窓口で相談するよう案内することとしております。まず、なかなか情報へのアクセスが難しい部分もあるので、巡回相談など、普段の機会を捉えて、そこにいらっしゃるホームレスの方にワクチン接種の周知を行っていただくとか、相談窓口にちょうどいらしたときにワクチンの案内をしていただくとか、そういった方法をご紹介しているところでございます。2点目が、ホームレスの方が窓口でいらして、接種を希望する旨申し出があった場合については、まずは住民登録がされていればそれを基に接種券を発行することになるので、住民登録の有無を確認していただくとともに、申請を行って接種券の再発行を受けるように調整してくださいとお伝えしております。

また、3点目なんですが、住民登録がなされていない方、あるいは住民票がどこかにあるんだけど分からないなどやむを得ない事情がある方については、相談を受けた市町村において接種券の発行を行うことをお願いしているところでございます。また、なかなか行政だけだと難しい部分もありますので、必要に応じてホームレス支援されている団体とも連携して、手続きのお手伝いをしていただければという形でお願いしているところでございます。また、施設や自立支援センターなどに入っている方に関しては、その施設で取りまとめていただくといった方法も考えられますとご紹介しているところです。次のスライドをお願いいたします。

4.ホームレス等の方々への接種に向けて

- 実際に接種が始まって以降、本人確認書類の取り扱い等について、現場から対応に苦慮しているとの声があがっていたことから、7月の事務連絡で追加周知
- また、自治体の取組事例についてもあわせて紹介

【7月の事務連絡のポイント】

- ◆ 例えばホームレス等の方が自治体に接種券を請求する際に、**本人確認書類所持の有無を確認**。
無い場合はその場で氏名・生年月日等の聞き取りを行った上で、自治体にて本人確認を実施した旨の**別紙等を作成し、接種時の本人確認書類と代えるなどの対応**を行うことが考えられること。
- ◆ また、本人確認書類としては、マイナンバーカード、運転免許証、被保険者証の他にも、通常、市町村で本人確認に用いる書類を活用することも可。
※ なお、住民登録のないホームレス等の方についても、氏名等を含め接種記録を適切に管理すること。
- ◆ **ホームレス等の方々に対する周知**においては、以下のような対応をご検討いただきたいこと。
 - ・ 各自治体が作成する資料（**広報誌等**）や、接種券に同封する**事業案内等を活用**。
 - ・ 新型コロナ予防接種について**簡潔かつわかりやすくまとめた資料を別途作成**。
 - ・ ホームレス等の方々を訪れる可能性のある**ネットカフェや簡易宿泊所、カプセルホテル、サウナ等の終夜営業店舗等へ事業案内等を置き**、周知を図るよう依頼。

まず4月に第1弾としてそれを打ち出したんですけれども、実際に接種が始まって以降、本人確認書類の取り扱いについて、現場からなかなかどう対応したらいいか分からないという声をいただいたことがあり、7月の事務連絡で追加周知を行ったところでございます。7月の事務連絡のポイント、下の四角に書いているんですけれども、まず、大きなところとして、接種券くださいとホームレスの方々から申請があったときに、本人確認書類の所持の有無も併せて確認してくださいということにしております。もしそれを持っていらない場合については、氏名や生年月日など、接種に当たって必要な情報を聞き取っていただいた上で、自治体で本人確認しましたという旨の別紙を作成していただいて、接種時の本人確認書類に代えるなどといった対応が考えられると紹介させていただいています。

また、もし本人確認書類として、その自治体で普段使っているものがあれば、その確認書類を使ってくださいということもお伝えしているところでございます。また周知方法につきましても、4月の段階でもお知らせは少ししたんですけれども、それに加えて、例えば自治体が使っている広報誌とか、接種券と同封している接種案内などをもって周知していただく、あるいは、ワクチン接種について別途、簡潔に分かりやすくまとめた資料を作成していただく、また、その周知の方法について、訪れる可能性のあるネットカフェや簡易宿泊所、カプセルホテル、サウナなど終夜営業店舗に事業案内を置いていただいて、周知のご協力をお願いしていただくなどといった方法があるといった形で周知したところでございます。また、この7月の事務連絡では、自治体の取り組み事例についても併せてご紹介させていただいてまして、それが次のスライドになります。

4.ホームレス等の方々への接種に向けて

【7月の事務連絡のポイント（続き）】

◆ 自治体の取組事例を紹介。各自治体で活用可能な点等について、各自治体に共有。

★ A市の事例

- ・ ホームレス等の方のワクチン接種機会の確保について、相談窓口等を案内した **接種勧奨チラシを作成**
- ・ **巡回相談員がチラシを渡して**、接種勧奨、**必要に応じて相談窓口への同行**を行うとともに、その後の再勧奨、接種確認、健康観察を実施。
- ・ **ホームレス支援団体が窓口**となり、接種を希望する方に **接種券再発行申請を受け付け**。
- ・ 本人確認書類がない方については、本人への聞き取りを行い、保健所と連携し、**本人確認書類の代わりとなる引換証を発行**することで対応。

★ B市の事例

- ・ ホームレス等の方が集まる **炊き出しなどへの巡回相談において**、自立相談支援機関の巡回相談員がワクチン **接種希望を聞き取り**。
- ・ 本人確認書類を所持していれば、**自立相談支援機関が接種券再発行申請書を受領して市に提出**。
- ・ 発行された接種券は **自立相談支援機関を通じてホームレス等の方へ交付**。
- ・ 本人確認書類がない場合は、申立書（本人が申し出た氏名、生年月日を記載及び巡回相談員が撮影した写真を添付）を提出することで接種券の発行が可能となるよう検討中。

A市とB市という形でご紹介させていただいてるんですけども。まずA市の事例につきましては、ホームレス等の方のワクチン接種の機会の確保について、相談窓口等を案内するチラシを作成していただいているところです。巡回相談員の方がそのチラシを渡して、必要に応じてワクチン接種の相談窓口への同行を行ったり、その後の様子を観察していただいたりしているとのこと。その他、ホームレス支援団体が窓口になりまして、接種券の再発行申請を受け付けていたりもされるとのことでした。また、本人確認書類がない方については、本人への聞き取りを行いまして、本人確認書類の代わりとなる引換証を発行することで対応されているとのこと。

B市につきましても、いろいろ取り組みを行っていただいております。まず、B市においては炊き出しなどの場所での巡回相談において、ワクチン接種希望を聞き取っていただいているとのこと。また、本人確認書類を所持していれば自立相談支援機関が再発行申請書を受領して市に提出しているとのこと。発行された接種券については、その自立相談支援機関を通じてホームレスの方々へ交付されているとのことでした。また、本人確認書類の取り扱いについても検討されているということでした。

4.ホームレス等の方々への接種に向けて

情報提供資料(自治体案内バージョン)

住まいがない方へ 新型コロナウイルスワクチン接種のお知らせ (無料(公費負担))

- 65歳以上の方(昭和32年4月1日以前に生まれた方)から順番にワクチン接種を開始しています。
- ワクチンは3～4週間程度の間隔で2回接種します。
- ワクチン接種は強制ではありませんが、新型コロナウイルス感染症を予防するため、接種にご協力をお願いします。
- 接種方法など詳しいことは、最寄りの区役所でお尋ねください。
- ワクチンは、発症を予防し重症者や死亡者の発生をできる限り減らすことを目的としています。
- ワクチンを受けた人は受けていない人よりも、新型コロナウイルス感染症を発症する人が少ないことが分かっています。
- ワクチン接種後、副反応が起こる可能性があります。そのため、接種会場で15～30分間、急性アレルギー反応などの様子を見ます。なお、接種後に接種部の痛み、倦怠感、発熱などが発生する可能性があります。多くは数日で治ります。
- ワクチン接種後も他の人への感染を防止するため、マスクの着用など、感染予防対策の継続をお願いします。

裏面をご覧ください

表

お問い合わせ先
〇〇市新型コロナウイルスワクチンコールセンター
Tel: XXXX-XXXXXXX XXX-XXXX-XXXX
受付時間: 9時から21時まで(土日祝含む)

〇〇市

ワクチンの接種に関するご相談はお近くの 区役所窓口へ

※ご相談の際はこのチラシを持ってきてください。

＜ワクチンを受けるまでの流れ＞

- ① 区役所で申請書を書いてください。
- ② 接種券引換証(本人確認書類)を渡します。

(↓おおよそ□□日後)

- ③ 区役所が決めた日に接種券引換証を持って、区役所窓口まで来てください。
- ④ 区役所からあなたへ必要な書類を3つ(接種券・予診票・接種券引換証)渡します。
- ⑤ 区役所でワクチンを受ける日にちと場所を予約します。

▲▲接種会場、■■接種会場

↓

- ⑥ 予約した日に④で渡した必要な書類3つを持って、予約した場所でワクチンを受けましょう。

裏

次のスライドに移りまして、こちらがその実際作成していただいたチラシを基に、全国で使いやすい形に厚生労働省のほうでアレンジしたものになります。情報提供資料としてこのような形で分かりやすい表現で、チラシを作って配布していただいているというところでございます。まず、こちらのスライドが自治体へ来るように案内する内容になっているバージョンでございまして、このチラシを持って相談に来てくださいという形でご案内する

ということになっております。

1. 新型コロナワクチン接種の概要

情報提供資料(支援団体案内バージョン)

**住まいがない方へ
新型コロナウイルスワクチン接種のお知らせ
(無料(公費負担))**

- 65歳以上の方(昭和32年4月1日以前に生まれた方)から順番にワクチン接種を開始しています。
- ワクチンは3～4週間程度の間隔で2回接種します。
- ワクチン接種は強制ではありませんが、新型コロナウイルス感染症を予防するため、接種にご協力をお願いします。
- 接種方法など詳しいことは、最寄りの区役所でお尋ねください。

● ワクチンは、発症を予防し重症者や死亡者の発生をできる限り減らすことを目的としています。

● ワクチンを受けた人は受けていない人よりも、新型コロナウイルス感染症を発症する人が少ないことが分かっています。

● ワクチン接種後、副反応が起こる可能性があります。そのため、接種会場で15～30分間、急性アレルギー反応などの様子を見ます。なお、接種後に接種部の痛み、倦怠感、発熱などが発生する可能性がありますが、多くは数日で治ります。

● ワクチン接種後も他の人への感染を防止するため、マスクの着用など、感染予防対策の継続をお願いします。

裏面をご覧ください

表

**ワクチンの接種に関するご相談はお近くの
〇〇市**

※ご相談の際はこのピラを持ってきてください。

<ワクチンを受けるまでの流れ>

- ① 〇〇で申請書を書いてください。
- ② あなたのかわりに〇〇が区役所へ申請書を持って行きます。
(↓おおよそ〇〇日後、〇〇があなたのところへ伺います。)
- ③ 〇〇からあなたへ必要な書類を3つ(接種券、予診票、接種券引換証(本人確認書類))渡します。
- ④ 〇〇でワクチンを受ける日にちと場所を予約します。
▲▲接種会場、■■接種会場
- ⑤ 予約した日に③で渡した必要な書類3つを持って、予約した場所でワクチンを受けましょう。

お問い合わせ先
〇〇市新型コロナワクチンコールセンター
TEL: XXXX-XXXXXXX XXX-XXXX-XXXX
受付時間: 9時から21時まで(土日祝含む)

〇〇市

15

次のスライド移りまして、支援団体に相談しに来てくださいと案内するバージョンになっております。表面は同じなのですが、裏面の表記をちょっと変更しているものでございます。

1. 新型コロナワクチン接種の概要

(2) 接種券引換証(本人確認書類の代替)

接種券引換証

受付日: 令和 年 月 日

姓 _____

月 日 以降に当該区にて新型コロナワクチン接種の接種券をお返ししますので、「接種券引換証」を必ずご持参ください。
なお、「接種券引換証」は、接種日当日の接種会場(※区役所/保健所/指定接種会場)へ必ず持参ください。接種するの必要な本人確認書類となります。

■接種日予約

1 回目	予約日時:	月 日 ()	:	予約会場:
2 回目	予約日時:	月 日 ()	:	予約会場:

【当日の持ち物】

- 接種券
- 予診票(あらかじめ記入の上、お持ちください)

【注意】

- 持ち主に宛先が不明な場合、体調不良、場合によっては、接種会場、コールセンターにご連絡ください。
- ▼コールセンター
電話番号: 0570-XXXX-XXXX 受付時間: 00～21:00(土日祝含む)
TEL: XXX-XXXX-XXXX: 電話番号が利用できない場合は、こちらの番号にご連絡ください。
-番号が出ず、通話できない場合、再度お電話ください。
- ワクチンの接種は十分前までに、同接種場のカフェを一定時間閉鎖して返さないようお願いします。
- ワクチン接種は、2回分が接種券1枚で接種券1枚に1枚となります。
- 接種券は必ず本人確認書類として持参ください。
- マスクの着用にご協力ください。
- ワクチンの接種は接種会場で行われます。

■本人確認

〇〇市役所/保健所/指定接種会場 接種券引換証
本「接種券引換証」は、接種日当日の接種会場(※区役所/保健所/指定接種会場)へ必ず持参ください。接種するの必要な本人確認書類となります。

16

次のスライドに移りまして、こちらがその本人確認書類の代わりとなる接種券引換証の例となっています。接種に当たって必要な情報、予約の日時などを記入する他、注意点、本人確認欄ということで、この引換証をもって本人確認書類の代わりとするという形で運用いただいているところでございます。

1.新型コロナワクチン接種の概要

団体への接種案内文

●ホームレスの方への新型コロナウイルス感染症に係る予防接種について

新型コロナウイルス感染症ワクチンを接種するためには、住民票所在地の自治体が発行する『接種券』が必要です。ホームレスの方から予防接種の相談があった際は、下記のとおり支援をお願いします。

「接種券再発行申請書兼送付先変更申請書」

〇〇〇〇会 できりまてためえ、〇〇課に提出。

→ 後日、〇〇課から、〇〇〇〇会 に接種券をまとめてお渡しします

→ 〇〇〇〇会 から、ご本人に接種券を渡していただくをお願いします。その後、接種の予約が必要です。）

★住民票が〇〇市内にあるか、既に消除されている場合の手続きについて

① 別添の『接種券再発行申請書兼送付先変更申請書』を記入し、〇〇市〇〇課へご提出ください。
当課への申請書提出にあたっては、接種を受ける本人ではなく、〇〇〇〇会で取りまとめていただきますよう、お願いいたします。
※ 申請書の提出は郵送または当課へ直接持参いただきますよう、お願いいたします。
※ 申請書の提出及び予防接種時には、接種を受ける人の『本人確認書類』が必要となります。

② 当課を介してワクチン接種担当部署へ申請書を提出し、〇〇〇〇会に『接種券』をお渡しします。 ※他の支援団体さんがご協力して下さる場合も、対応可能です。相談してください。

③ 〇〇〇〇会から、ご本人に接種券を渡してください。ご本人と一定期間連絡が取れない場合は、接種券を〇〇課に返却してください。当課からワクチン接種担当部署に返却します。

④ 接種券の発行後、予防接種の予約をする必要があります。（会場は〇〇市内の接種可能なクリニックが集団接種会場となります）

⑤ ワクチンは2回接種する必要があります。接種の間隔は、ファイザー社製ワクチンは通常3週間、モデルナ社製ワクチンは通常4週間です。

★住民票が〇〇市外にある場合の手続きについて

住民票所在地の自治体にて、接種券の発行手続きを行う必要があります。自治体によって手続き方法は異なりますので、住民票所在地の自治体窓口にご相談ください。

※ 〇〇市外に住民票のある方が市内の接種会場において接種を受ける場合は、インターネット又は郵送にて住所外接種の届け出を行った後、〇〇市新型コロナワクチン接種コールセンター（×××-×××-××××）に電話して、接種の予約をしてください（予約専用サイトからの予約はできません）。

17

最後のスライドに移って、こちらが団体への接種案内文なんですけれども、市町村からホームレスの支援をされている団体のほうへお願いする際の依頼文の例についても、7月の事務連絡と一緒に紹介させていただいているところでございます。このような形で、ワクチン接種の課題となる部分について、こういったやり方がありますというのを紹介をさせていただいているところです。なかなかそれでも接種自体が過去にない規模のもので、課題もありながらみんなで力を合わせて進んでいる状況なので、引き続き、いろいろな方々の協力を得てワクチン接種を進めていければと思いますので、ぜひ皆さま、ご協力できる範囲でご協力いただけると大変ありがたいなと考えております。簡単にではございますが、こちらで説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

岩本 大石さん、ありがとうございました。引き続きまして2番目の『豊島区におけるグッドプラクティスとホームレス状態のかたがたへのアンケート調査』に関して、世界の医療団ハウジングファースト東京、武石さんからお話を伺います。武石さん、よろしく願いいたします。



SOIGNER & TÉMOIGNER

みんなのSDGsオンラインセミナー2021年7月30日
希望するすべての人にワクチンを
誰一人とり残さないSDGs実現のために【日本人編】

豊島区におけるグッドプラクティスと
ホームレス状態の人々への
アンケート調査

認定NPO法人 世界の医療団
ハウジングファースト東京プロジェクト コーディネーター
武石 晶子

よろしくお願いいたします。世界の医療団の武石晶子と申します。普段は池袋の周辺で路上生活者支援に取り組んでおります。次のスライドをお願いいたします。

ハウジングファースト東京プロジェクトとは


世界の医療団

「医療・福祉支援が必要な生活困難者が地域で生きていける仕組みづくり・地域づくりに参加する」をプロジェクト理念とし、池袋周辺と他の地域でホームレス状態にある人々向け、医療・保健・福祉へのアクセスの改善、そして精神状態と生活状態の底上げ、地域生活の安定を目的とし活動しています。



皆が集まる居場所 日中活動開始	2010	「東京プロジェクト」スタート 医療・福祉の支援が必要なホームレス状態にある人々の 精神と生活向上プロジェクト
池袋あさやけベーカリー 設立	2011	夜回りに配るパン作り、地域の大学の委託事業を行う
訪問看護ステーション KAZOC 誕生	2012	安定した住まいの確保を目的に、グループホームしずく 設立
つくろい東京ファンド と連携	2013	障がいがあっても地域社会で安定して生活できるように 訪問看護を通じサポート
ゆうりんクリニック設立	2014	他の地域との輪を広げ、個室シェルターのニーズに応える
ハビタット・フォー・ヒューマニティー ・ジャパンと連携	2015	「ハウジングファースト東京プロジェクト」に名称変更 まずは安心できる住まい、そこからリハビリが始まる
	2016	医療相談や夜回りで出会った治療の必要な方を支える
	2017	住まいに関する悩みを解決、修繕と管理をサポート、見守り支援
	2018	就労継続支援B型事業所 Base Camp設立

#Health4All

2

簡単にハウジングファースト東京プロジェクト、今、7 団体で取り組んでいるんですが、それについて少し2分ぐらいでお話させていただきます。もともと2010年に始まったプロジェクトで今年12年目に入っているんですけど。もともと3団体で始まりまして、医療、福祉支援が必要な方たちが路上から、路上を脱出してご自身の住みたい地域で住むことを

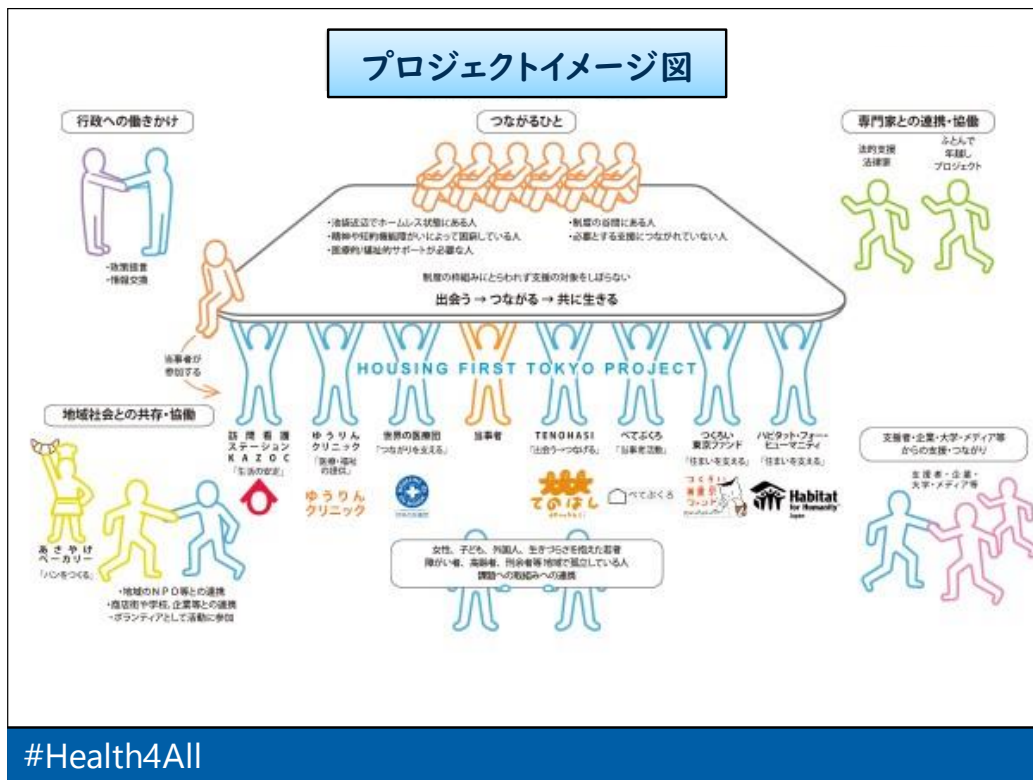
応援する、そういうのをお手伝いをするというプロジェクトになっています。2010 年当初は NPO 法人 TENOHASI、もともと池袋で 2000 年初頭から活動している団体と、あと、べてぶくろという団体、3 団体で始まりました。次のスライドお願いいたします。

構成団体	
TENOHASI	2003 年～池袋で夜回り・炊き出しを行ってきたホームレス支援団体
世界の医療団	1980 年にフランスにて設立された NGO。16 カ国に事務局があり国内外で医療の非整備、格差に取り組む。全体コーディネート、医療相談会、アドボカシーなど
べてぶくろ	北海道浦河 べてるの家×池袋＝べてぶくろ グループホームの運営、当事者研究、べてるの商品販売、自助活動、就労継続支援 B 型作業所
訪問看護ステーション KAZOC	看護師・作業療法士による精神科訪問看護事業を行なっている。現在は都内 4 箇所に事業所を持つ
つくろい東京ファンド	住宅支援、『カフェ潮の路』の運営、アドボカシー
ゆうりんクリニック	2016 年春に開院したソーシャルワーク中心型の医療サービス機関
ハビタット・フォー・ヒューマニティー ジャパン	1976 年アメリカで発足。世界 70 か国以上 1,300 万人以上に住宅支援を行う国際 NGO。日本の住宅支援では、修繕、清掃支援、お家探し、見守り活動等を実施。居住支援法人

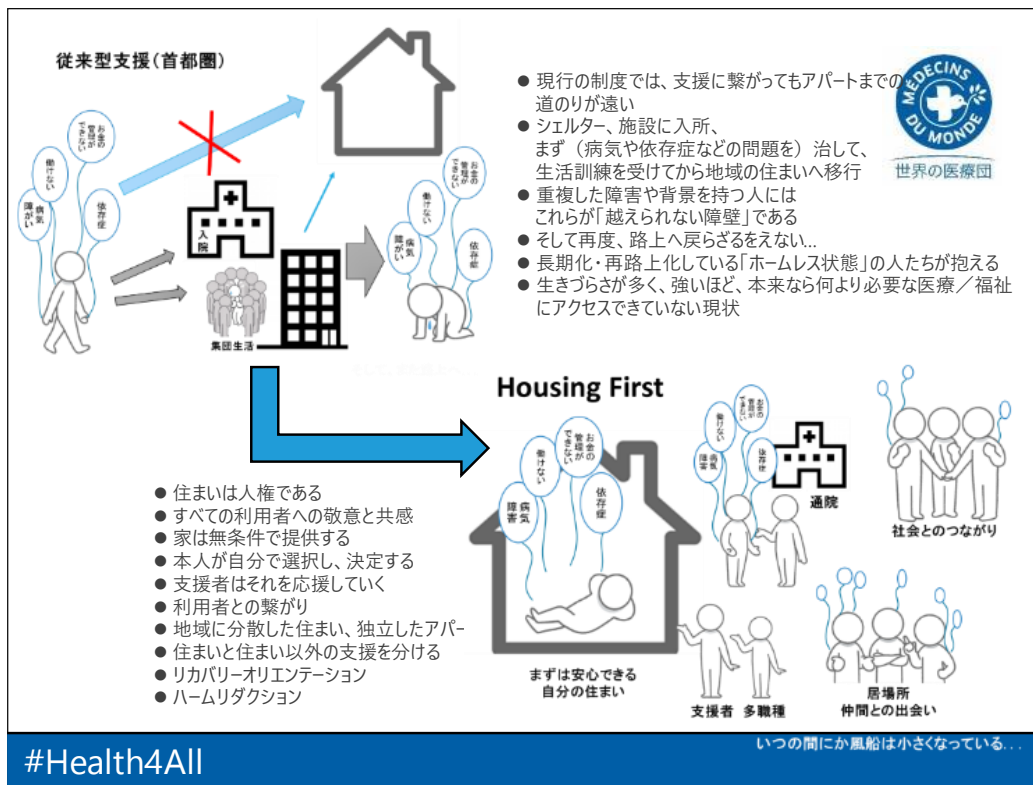
#Health4All

現在は 7 団体に成長しているんですけど、そのプロジェクトの中で訪問看護ステーションが立ち上がったりとすとか、クリニック立ち上げたりとすとか。つくろい東京ファンド、ハビタット・フォー・ヒューマニティー・ジャパンが合流することによって、住まいの支援がかなり充実したものができるようになりました。これに関しては個室のアパートを利用して、まず路上から個室の、私たちが持っている個室のシェルターに入っていて、そこから次、ご自身のアパートに移っていただくというハウジングファースト型の支援をしています。

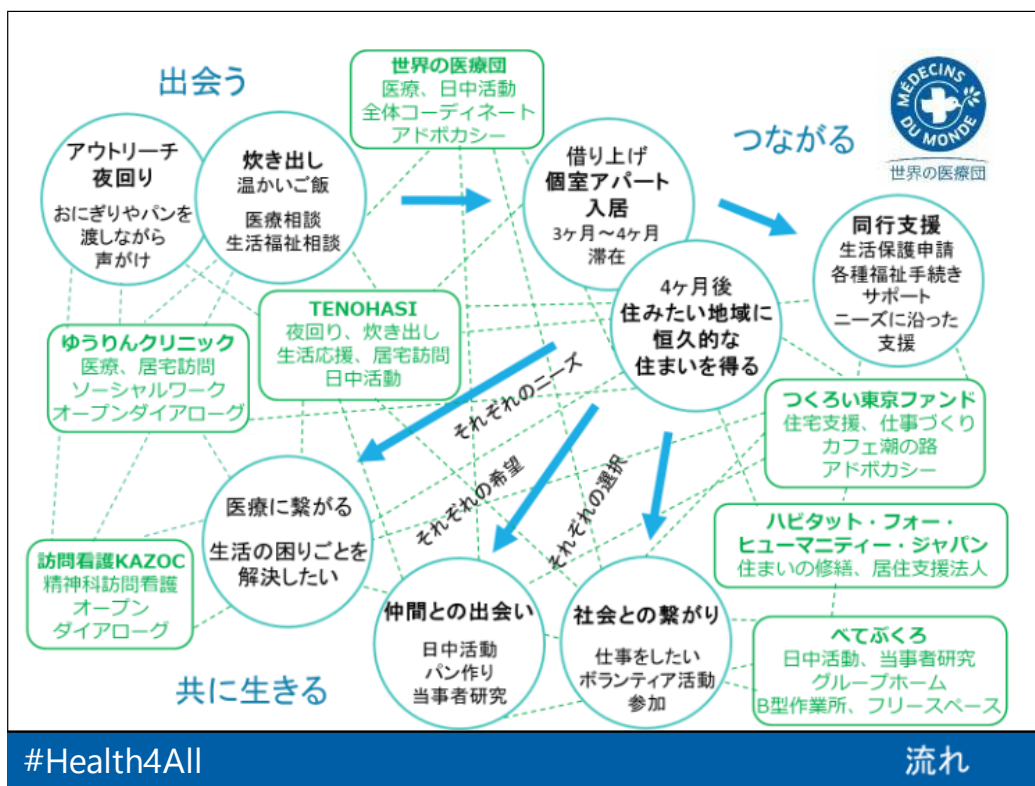
もともとちょっと補足の説明をしますと、もともと路上の方が生活保護など申請をして首都圏で、私たちの活動範囲の首都圏で生活保護など申請すると、割と大部屋の施設ですとか個室ではない施設に入って、そこの環境に馴染めず路上に戻ってしまうって方が本当に多くて。そういう方たちにどうして、どういった支援が必要かといったところでハウジングファースト型の支援に取り組んでいます。次のスライドお願いいたします。



実際には 7 団体で取り組んでいるということなんですけれど、その周りには他にも地域の他の団体ですとか、個人の方がご協力してくださったりですとか、あと一番大きく力を発揮してくれていると思うのは、元路上生活を経験した方たちが支える側となって一緒に活動しております。次のスライドをお願いいたします。



先ほどとちょっと重なるんですけど、そのもともと現行の制度で支援につながっても、アパートまでの道のりが遠いということで、先ほど、最初の稲場さんのごあいさつでもあったかと思うんですけど、それこそ一番生きづらさが多くて強くて、本来本当に支援を必要としている方ほど、医療とか福祉へのアクセスができていないという現状がずっとあります。そうすると長期化、再路上化する方たちがとても多いというのが、池袋でも2009年に調査をしまして分かっていました。そこから私たちハウジングファーストというアメリカからきている、住まいは人権であるということで、まず無条件に住まいを提供してそこから必要な支援に、ご自身が望む生活を手に入れるために支援していくという形で支援をしています。これがハウジングファーストというものになります。次のスライドお願いいたします。



じゃあ、実際に私たち池袋でどんな実践をしているかといいますと、アウトリーチ活動ですとか、毎週の夜回りですとか、月に2回、池袋の東池袋中央公園で炊き出しでお食事をお出ししたりとか、今、コロナ禍なのでお弁当とか食料の配布になっておりますけれど、そこで医療相談、生活福祉相談をしております。そこからアパートに入ってもらって、その後、住みたい地域に恒久的な住まいを得るお手伝いをしていっています。7団体でやっているもので、どこで切り分けているというのはあまりなくて、縦横無尽にいろんな団体がいろんな方を支援しているという形で、緩いつながりで、団体間もとても緩いつながりなんですけれど、そういった形で支援をしています。次のスライドお願いいたします。



◆無料医療相談会◆
第2、第4土曜日
東池袋中央公園にて
発熱ブース、歯科ブース
こころとからだの、なんでも相談

MEDECINS
DU MONDE
世界の医療団

#Health4All

先ほど申し上げた、第2、第4土曜日の炊き出しの、TENOHASI が主催している炊き出しの現場でこういった無料の医療相談会をしております。現在、大体 60 名ぐらいの方が毎回受診に訪れます。生活相談のほうも当初、コロナ禍前ですと毎回 5 人とかだったんですけど、だんだんコロナ禍で 10 人、15 人増えて、先週の土曜日は過去最高で 27 人の方が相談にいらっしゃいました。次のスライドお願いいたします。



◆アウトリーチ活動◆
池袋駅周辺夜回り 毎週水曜日

MEDECINS
DU MONDE
世界の医療団

#Health4All

こちらは毎週水曜日に池袋駅周辺でアウトリーチ活動として夜回りをしております。ここでは、おにぎりですとか、その日焼いた、手作りで焼いたパンをお配りして活動をやっています。次のスライドお願いいたします。

新型コロナウイルス感染拡大防止活動



- まずは「情報の貧困」の解消を
- 感染予防キットは、コミュニケーションツールでもある
- 医療相談会は、路上脱出のきっかけ作りの場、入口支援

- 活動地：東池袋中央公園、池袋周辺、都庁下、隅田川
- 炊き出し医療相談会実施：毎月第2、第4土曜日
- 夜回り活動：毎週水曜日
- 感染予防キット配布数（2020年3月～）：16,183セット

感染予防キット

マスク
手指消毒薬
液体石けん
カイロ
ティッシュ
チラシなど



炊き出し医療相談会の様子



心配な症状は医師に相談



お一人お一人にお声がけしながら配布

#Health4All

これは特に、コロナ禍になってどんな活動を私たち世界の医療団でしてきたかというところ、まず、情報の貧困の解消をということで、コロナウイルスに関する情報を届けたりですとか、マスク、消毒液、せっけんなどを届ける活動を今も各地でやっています。今は隅田川医療相談会ですとか、東京都庁下でやっている新宿ご飯プラスですとか、そういうところでも同じようにお配りしています。次のスライドお願いいたします。

◆ NPO法人TENOHASI 炊き出し相談会 ◆

第2、第4土曜日17時～ 東池袋中央公園



#Health4All

資料提供：NPO法人TENOHASI

これちょっと人数の推移で分かりやすいかなと思ったんですが、水色がコロナ禍前の2019年度の炊き出しに並ばれた方の人数です。最高でも217人とかだったんですけど、2020年度、このオレンジのところ見ていただくと、4月とか、去年の4月とかそこまで大差はなかったんですけど、200人を超える日が増えてきて、10月以降、感染者の人数が増えたのと並行して並ばれる方が増えてたり、少し減ったりっていうところがありました。またちょっとぐっと減っているところは、すごい悪天候だったりすると少し減る感じです。2021年になってから、もう本当にずっと350人以上を推移していて、6月、これは5月までのデータなんですけれど、5月、6月、7月もずっと増え続けておりまして、先週の炊き出しでは本当に400人に迫る勢いでした。リーマンショックのときが最高が450人ぐらいと聞いているので、本当にそこに迫る勢いなんだなっていうのを肌で、私たちも活動現場で感じています。次のスライドお願いいたします。



～ 希望するすべての人のワクチン接種実現のために ～

1. 現在までの活動の流れ
2. 第1回 聞き取りアンケート結果
3. 豊島区との協議
4. 今後の活動

#Health4All

ここからちょっと本題になります。新型コロナワクチン接種に関する活動についてのご報告なんですけど、このあと4パートに分けて、現在までの活動の流れと第1回目の聞き取りアンケート、5月22日の炊き出しの相談会でやりました。このとき314人の方から回答をいただいています。それをもって豊島区との協議を今も続けておりまして、実はその後、先週の土曜日に第2回の大規模アンケートをやっておりまして、ここでまた330人ぐらいの方に回答をいただいています。4番目に今後の活動ということでご報告していきたいと思っています。次のスライドをお願いいたします。

時期	1. 現在までの活動の流れ
2021年初め	新型コロナウイルスワクチンの接種券は住民票の住所に郵送されるので 居住している自治体で接種を受けること。
4月23日	●東京都に、住民票のない方へのワクチン接種について問合せる → 各自治体へ任せているとの返答 ●豊島区のワクチン接種担当に、同様のことを問い合わせる → 問合せ時は「豊島区に住民票のない人」の категорияに路上生活者は入っていなかった。 所内で検討して回答するが、時間がかかるかもしれないとの返答
4月27日	豊島区ワクチン接種担当から、ホームレス状態の方の接種もなんらかの形で実施していくので、 協力してくださいと連絡が入る。
4月30日	厚労省から自治体へ事務連絡 「ホームレス等への新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の周知等について」
5月22日(土) 5月26日(水)	第1回 新型コロナウイルスワクチン接種について、聞き取りアンケート実施 ●33人のボランティアが集合し、16時半～池袋炊き出し会場にて（約360人中291人回答） ●21時半池袋夜回り前に、炊き出しに来ていなかった方対象にアンケート実施 30人中23人回答
6月21日	◆第1回豊島区との話し合い◆ アンケート結果、要望を伝える、行政の計画を聞く 池袋保健所（課長＆係長合計4名）、豊島区地域福祉課、NPO法人TENOHASI、世界の医療団
7月7日	都庁申入れ：ワクチン接種に関しても言及（自治体の横の連携、路上の方の接種後の滞在先）
7月9日	豊島区社会福祉協議会と顔合わせ（池袋炊き出し相談会での相談ブース設置について）
7月9日	厚労省から自治体へ事務連絡 「ホームレス等への新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の接種機会の確保について」
7月13日	◆第2回豊島区との話し合い◆ ワクチンちらし、具体的な接種場所や時期、身分証明書tc.)
7月24日(土) 7月28日(水)	第2回 聞き取りアンケート実施 ※やさしい日本語チラシ配布してワクチンについて周知、相談ブース 豊島区民社会福祉協議会 4名が炊き出しを視察、アンケートに参加
8月10日	◆第3回豊島区との話し合い◆ 第2回アンケート結果を持っていく、より具体的な接種方法を協議予定

これちょっと細かくて見にくいんですけど、ご説明していききたいと思います。まず、先ほど大石さんのご報告にもありましたとおり、接種券が、ワクチンの接種券がまず住民票の住所に郵送されるということが皆さん報道されて分かってきて、その時点で去年、特別給付金、10万円の給付金も住所、住民票の住所に申請書が送られてきて受け取れないっていう方がたくさんいらしたなっていうのを思い出しました。ちょっとさかのぼるんですけど、去年のコロナウイルスが感染拡大が始まったときにも、コロナウイルスって何とか、そういう情報が本当に足りてなくて、例えばすごいよく聞かれた声は、自分は保険証も持っていないしお金もないから、かかったら死ぬだけだなんていうのを本当によく聞かれました。あと、もともと病院に行っても門前払いだからとか、そういったどうやって医療にかかればいいのか分からないっていった声もありました。

そういった声とか特別給付金のことを踏まえると、今回も諦めの声が出るんじゃないかと思いました。接種券が住民票の住所に届くんだっていう、そもそもその情報が届かないっていう懸念と、それが届いたとしても、いやいや自分は住民票、住所ないっていう、それだから受けられないんじゃないかという声があるんじゃないかと思いました。本来、ワクチンを打つ打たないは任意なので、個人選べるはずのもので選択できるはずのものであるんだけど、既にその選択をできない状態という、選択する権利を奪われている状態であるんだっていうことを認識しまして、そこからなんとか、その権利の回復をしていきたいと思って活動が始まりました。

先ほど、4月30日に厚労省から自治体に事務連絡がいったんですけど、実は豊島区は、その前段階の時点では、私が豊島区のワクチン接種担当に住民票のない方、路上生活、ホームレス状態の方どうしたらいいですかという問い合わせをしたところ、その事務連絡がくる前の27日には、4月の27日に何らかの形で接種を実施していくので、支援団体一緒に協力してくださいということで協力していきましょうというお話をしていました。そこで、4月30日に通知が出たので、これは実態を把握しなければなという、思いました。というのも池袋の炊き出し、以前から並ばれる方が100パーセント路上の方であつたりホームレス状態ではなく、ある一定の方は生活保護を受給されてたりとか、少ない年金でなんとか生活されているなんていう方もいらっしゃるの、実際、受け取れる方もいるんじゃないかっていうのも調べなければなということで、大規模なアンケートをやりました。

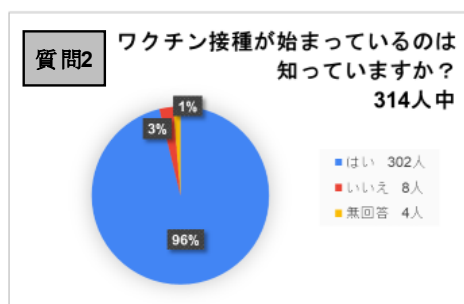
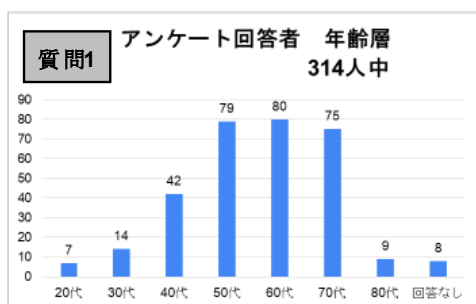
その後、それをもって6月21日に第1回豊島区との話し合いをしまして、このあとちょっとその詳しいアンケート結果とか話し合いの内容については触れたいと思います。それからそれを踏まえて7月7日に別件で、ビジネスホテルの宿泊しているその人たちが、オリンピックの影響で出されてしまうっていう情報が入って、それについて都庁に申し入れをしたときに、3項目目にワクチン接種に関しても言及をしました。そこでは自治体の横の連携を、東京都に問い合わせても各自治体に任せてますという回答しか当初なくて、自治体の方たちがすごい大変っていうのを、大変そうだっていう、保健所の方たちが大変であるというのは目の当たりにしていたので、そこで東京都にもうちょっと関わってくださいという申し入れと、路上の方が接種後に副反応で発熱したときに、どこか滞在先がないですかという、そういった話し合いをしました。

これは東京都だったんですけど。その後、これはちょっと後ほど説明しますが、豊島区の社会福祉協議会ともちょっと別件でお話をしています。そこから7月9日に事務連絡が出まして、7月13日第2回目の豊島区との話し合いをしました。このときにはちらしの内容ですとか、具体的な接種場所や時期、身分証明書のことなど活発なディスカッションをしました。先週の土曜日、第2回の聞き取りアンケートを実施しています。この際には、やさしい日本語のちらしを配布して、ワクチンについて再度周知しながら、相談ブースも設置したりといった活動をしています。今後、8月の10日に第3回の豊島区との話し合いを控えているところであります。次のスライドってください。

2. 第1回 聞き取りアンケート結果

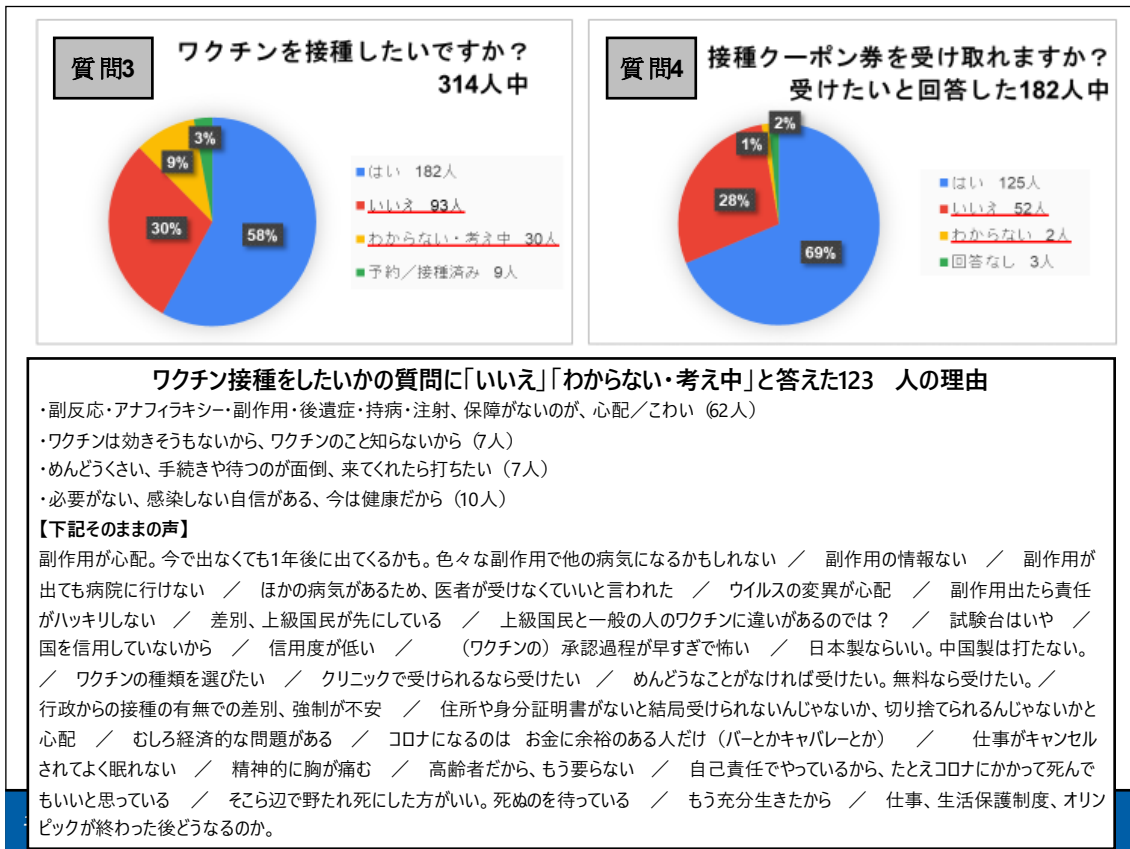
●アンケートの目的

- ・ 新型コロナワクチンの接種券は、住民票の住所に送られてくるので、わたしたちの活動地域でも接種券を受け取れない方たちが一定数いると考えた。豊島区では、そういった方達もなんらかの形で接種できるように協議中であることを踏まえ、炊き出しや夜回りに並ばれる住まいや身分証明書のない方が、接種をどこで希望されるか？身分証の有無や普段の居所などの状況を確認し、ニーズを明確にする。
- ・ 当事者の生の声を行政に届けたい、またワクチン接種に関しての啓発も同時に行う（豊島区のチラシ配布）
- ・ 聞き取りアンケート調査の分析結果を持って、豊島区と話し合いの場を持ちワクチン接種を希望する全ての人のワクチン接種実現のために協働していく。



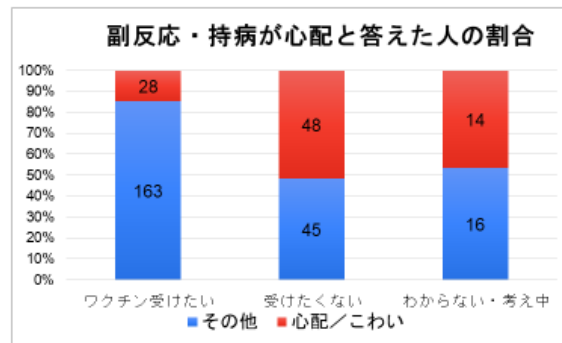
#Health4All

ちょっと駆け足になります。聞き取りアンケートの結果なんですけれど、当初、なぜアンケートをしたかというのは当事者の声を届けたい、それから、実際にどんなニーズがあるのかっていうのを知りたいということでアンケートをやりました。アンケート回答者 314 人の方のうち、結構、50 代以上の方がとても多かったです。ただ実際にはアンケートを拒否されている方も 30~40 人、50 人ぐらいいらしたので、その方たちがもう少し若年層だったのではないかなと想像しています。質問の 2 番目、ワクチン接種始まっているの知っていますかというところには、ほとんどの方は知っていちゃったんですけど、知らないという方も 8 人いちゃいました。次のスライドお願いいたします。



ここ、ワクチン接種をしたいですかという質問を突然3番目にしてみたんですけど。そのときに、はいとお答えになった方、182人いらっしゃいました。いいえと分からないという方が合わせて40パーセントぐらいいらっしゃいました。その、いいえ、分からないと答えた方、123人の方の理由っていうのが結構大事だなと思ひまして、その中で約半数の方が副反応ですとか、アナフィラキシーとか後遺症、あと持病があるから受けられないんじゃないかとか、保険証を持っていないので、その後、副反応が出た後に医療にかかれなから心配ですとか怖いとかいう声が最も多かったです。その後にも面倒くさい、手続きが、待つのが面倒なので、それが簡単だったら打ちたいっていうことだったりとか、今は健康だからとか感染しない自信があるなんていう路上の方の声も聞かれました。

その下は、そのまま聞かれた声を編集せずに載せています。例えば、副反応の情報がないっていうのもあったんですけど、差別、上級国民が先にしているととかそういった、なんかそういったキーワードが出てきたりとか、国を信用していないからとか、そういったちょっと国への不信感みたいな、信用できないみたいな気持ちがあったりですとか。それから住所や身分証明書がないと結局、受けられないんじゃないかとか、切り捨てられるんじゃないかっていうような心配をされる方。それから、あとワクチン接種どころではない、仕事がなく困っているんだ、食事もできなくてご飯もなくて困っているから、ワクチン接種のことは二の次だっていう声も結構聞かれました。次のスライドをお願いいたします。



副反応・持病が心配 90人の声

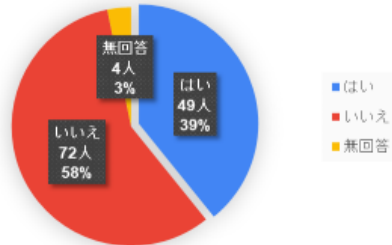
副作用こわい、注射が怖い
 後遺症がでる人があるときいたので、変化が心配
 副作用が出たときに、病院行った対応するのができない。
 独り住まいだし...体制が整ってもうたないと決めている。
 喘息、心臓も悪い。こわい アレルギーも。
 透析しているので怖い
 アレルギーの心配がある
 知り合いの方の副反応が大きかったのでこわい
 アナフィラキシー不安（アレルギーつよいので）リスク全くないなら受ける。
 副作用こわい 知識不足 RNワクチン 変異ウイルスには効かない可能性がある

#Health4All

そこで副反応、持病が心配と答えた人の割合ということで、実際ワクチンを受けたいといった 182 人の方のうち、15 パーセントぐらいの方が不安と答えたんですけど。では、受けたくない、分からない、考え中って方は半数の方が心配といていたので、情報が無いほど、あと副反応の情報があっても、じゃあ、路上にいながらにして副反応で発熱したらどうするんだっていった心配ですとか、保険証がないって、そういった心配によって受けたくないとか分からない、考え中っていうところにいつてるんじゃないかっていうのが、この結果から分かりました。すみませんが、1枚戻っていただけますでしょうか。そうですね。質問4の接種クーポン券を受け取れますかというところで、受けたいと回答した中の182人の方、実際受け取れないと答えた方が52人、分からない方も合わせると54名いらっしゃいました。次のスライドお願いいたします。

質問5

(クーポン券を受け取れる方)
予約の際お手伝いして欲しいですか？
125人中

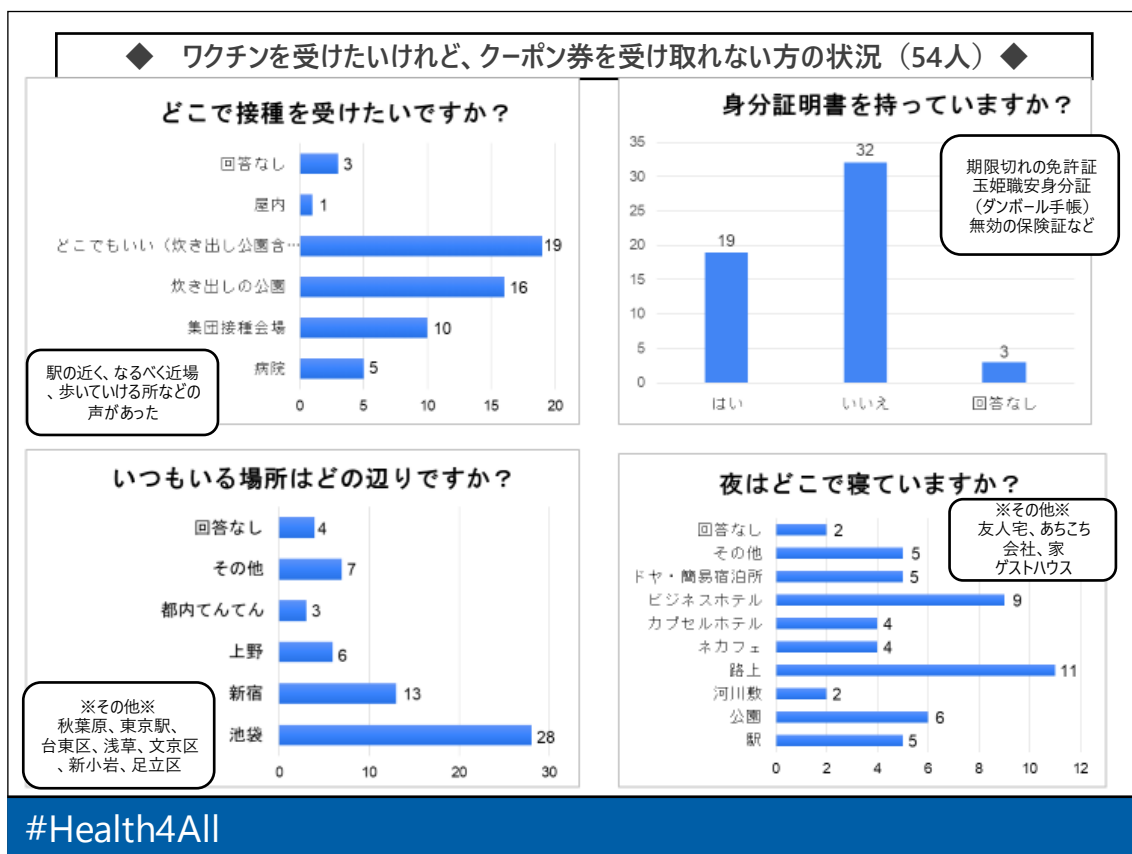


お手伝いが必要だと回答した 49人の声

電話、インターネットがない。／ 電子機器がない
やり方がわからなくて困っている ／ 自分でできるか不安 ／ サポート窓口があればよい
電話が繋がらない 10回くらいかけている ／ 小さな病院ばかりですぐに（予約枠が）埋まってしまう
会場の密が心配 ／ 手伝ってもらえたらありがたい、腰を痛めている。
2回目もちゃんと打てる状況で合って欲しい。
無料だと嬉しい ／ 失業中
色々心配 ／ 詐欺が心配
副反応、持病が心配（10人）

#Health4All

ここちょっとややこしいんですけど、ごめんなさい。受け取れると答えた方も意外に多かったんです。125 名の方だったんですけど、実はその中の 40 パーセントの方が予約ができない状況に陥っていらっしゃいました。それは電話がなかったりですとか、やり方分からなかったりとか、電話が繋がらないというお声も聞かれました。次のスライドお願いいたします。



先ほど言っていた受け取れない方の 54 名の状況です。受けたいところっていうと、炊き出しの公園ですとか、どこでもいいっていう回答が多かったです。身分証明書に関してもないという方が半分以上おられましたし、あると答えた方でも無効の保険証とか免許証だったっていう、期限切れだったっていうこともありました。それから、夜どこで寝ていますかという回答には、路上の方が公園とか駅の方が多かったです。次、お願いいたします。

3. 豊島区との協議



- ① アンケート回答者314人の内、副反応が心配と回答した人は90人
「受けたくない」「わからない・考え中」の人に関しては、それぞれ約半数が心配と回答
安心なら受けたいとの声もあった。

現状 : ワクチンに関する情報が不足している

提案 : やさしい日本語で、わかりやすいチラシが必要 周知は支援団体と協力

※内容例 : ワクチンはどうやって発症を予防するのか？ 副反応はどういうものか？
副反応の際どうすればいいか？ など

- ② ワクチンを受けたい と回答した182人のうち、接種クーポンを受け取れない もしくは分からないと答えた人は54人

現状 : 住民票がなくて接種クーポン券を受け取れない

提案 : 1回目の接種会場にて接種クーポン券を発行 1回目接種後、その場で2回目の予約をする

- ③ 予約クーポンを受け取れる25人中、予約ができない人は49人

現状 : 予約ができない理由はさまざま。例) 電話、インターネットがない。電子機器がない。
やり方がわからなくて困っている 自分でできるが不安、電話が繋がらない

提案 : 豊島区民社会福祉協議会による予約のお手伝い
= 池袋炊き出し時に相談ブースを設置

#Health4All

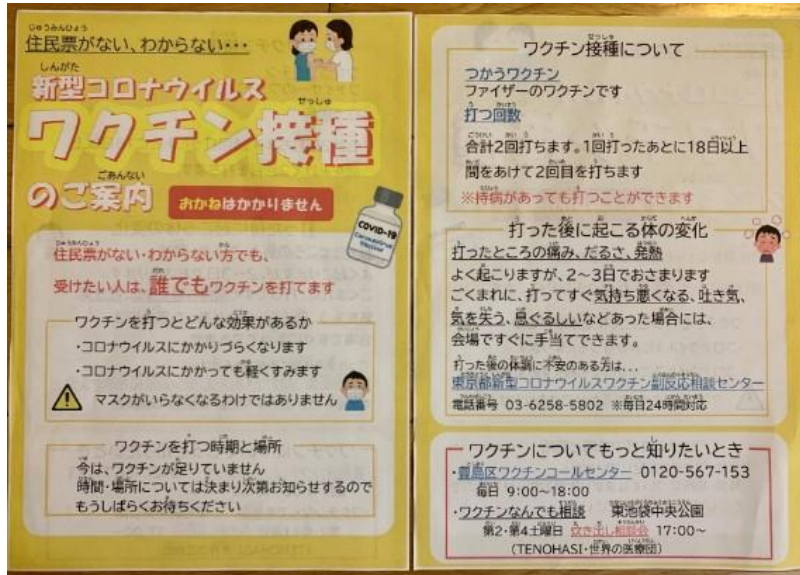
今の結果を踏まえて、豊島区との1回目の協議、何を提案しようかな、何が今、必要かなっていうのを分析したところ、3点ありました。1点目は情報が圧倒的に不足している。その中で提案として、やさしい日本語で分かりやすいチラシが必要ではないかと。周知は私たち支援団体が、炊き出しですとか夜回りでやりますよということで1点目、ちらしです。2点目これメインストリームだと思うんですけど、接種クーポンを受け取れない方、受けたいんだけど受け取れない方、その方たちの接種に関して、1回目の接種会場にて接種クーポン券を発行してほしいと、そこで1回目を接種したあと2回目の予約をする、2ステップぐらいでお願いしたいということを提案いたしました。

日雇いの仕事をされてたりですとか、そうですね。日雇いの仕事をされてる方とかお仕事を探されてる方なんかは、すぐ先の予定が立たないということもあって。再発行申請をしに行ったり、接種クーポン券をじゃあ、受け取ったり、そこから再度予約をしたりっていうそのステップがあり過ぎてると、接種までたどり着く道のりが遠くなってしまうと諦めてしまうんじゃないかと思ったので、2番目、こういうご提案をしました。

3番目は、既に接種クーポンを受け取ってる中で予約ができない方いらっしゃるということで、ここは豊島区は、既に豊島区の社会福祉協議会が予約のお手伝いに取り組んでいます。ごめんなさい。なので、それでその周知と、そこにもアクセスできない方たちの予約の手伝いをするために、炊き出しの公園に相談ブースを設置してほしいという提案をいたしました。あと、ちょっとここに書いていないんですけど、副反応、発熱したとき、路上で過ごすのは困難なので、そこをどうしていったらいいかというご相談もしています。次のスライ

ドお願いいたします。

豊島区との協働して作ったやさしい日本語のチラシ



#Health4All

実際に先週の土曜日、炊き出しの会場で2回目のアンケートをしたときに、このちらしを作ったものを、共同で豊島区と作ったものをお配りしました。いろいろワクチンの種類なんというのを、1回目のアンケートで種類をすごく、自分たちは中国製なんだろうとかいう声が聞こえたりとか、その辺、情報が全然行き届いてなかったのも、そういったアンケートの声を基にどんな情報を届けたいかということで、第1回目、こういうちらしを作成しました。次、お願いします。

4. 今後の活動

- ・ 第2回聞き取りアンケートの結果を分析し、豊島区との協議実施（月1回）
- ・ 炊き出しや夜回り、引き続きワクチンについて当事者に情報を届ける
- ・ 当事者の声を聞く

ポイント①

当事者の人たちがアクセスしやすい、よりシンプルに接種できるシステムの実現

ポイント②

支援団体の横の連携、各自治体のシステムを把握、豊島区のやり方をモデル化

ポイント③

当事者の声、特に不安を感じている声に丁寧に耳を傾ける → 届ける

（ワクチンなんでも相談ブースの設置 → 支援に繋がる）

ポイント④

接種後、発熱や痛みが出た時に路上で寝るのは困難 → 安心できる環境の整備

#Health4All

最後、今後の活動ということで、次、8月にまた第2回の聞き取りアンケートを持っていくなんですけど。まだちょっと集計が終わってないんですけど、第2回目のアンケートもかなり細かくいろんな質問をしたんですが、今、集計途中なんですけれど、既に182人の方のうち21の方が無料と知らないっていう、ワクチン接種が無料と知らなかったっていう結果が出ていて、結構、本当にそういう情報届いてないんだなっていうのが今回、また新たに分かっています。引き続きやっていくこととしては、炊き出し、夜回りで、ワクチンについて当事者の方に情報を届ける。また、一番大切だなと思うのは、当事者の方の声を聞くっていうところでポイントをいくつか上げました。当事者の方が一番アクセスしやすい、よりシンプルに接種できるシステムの実現。

それから2番目、支援団体の横の連携ですとか、あと各自治体のシステムを把握して、一から各自治体がシステムを作るのではなく、例えば豊島区のやり方がモデル化できたりとか、これも一つのやり方ですというのが共有できれば、いろいろその自治体によってやり方は異なっても、いろんなグッドプラクティスを利用しながら進めていけるんじゃないかと思っています。3番目、当事者の声、特に不安を感じている声が本当に多いです。それに関しては私たちもブースを設けたりですとか、無料の医療相談会をやっている横に先月、先週も相談ブースを初めて設置しました。そこから、実は生活相談につながる方も結構多かったんです。ワクチンの相談だったんですけど、アンケートだったんですけど、アンケートを聞き取っているボランティアさんたちが、これは生活相談に行ってもらったほうがいいなっていう方には直接ご案内したところ、生活相談に行かれる方が多かったですので、そういう活動は続けていきたいと思います。

最後、これまだまだ課題が全然、解決ほど遠いんですけど。接種後の発熱、痛みが出たときに路上で寝るのは困難なので、そこを安心できる環境の整備ということで、例えばビジネスホテルに入居できないとか、1泊でも2泊でも希望する人はできないか、なんていったアイデアなんかも出しています。いろんな方に今、この活動を関わっていただいて、このポイント、ポイントの活動の間にたくさん、オンラインのミーティングをしています。ワクチンのボランティア、聞き取りアンケートをしてくださったボランティアの方、メディアの方、それから普段、医療相談会でご協力してくださっている利用者の先生がたですとか、本当、たくさんの方が関わっているので、今後も本当にいろんな方に関わっていただいて、いち団体とかいち自治体とかでやるのではなく、横の連携しながら情報交換しながら続けていきたいなということで、まだ活動は続いていきます。

ご静聴ありがとうございました。



(注)「ひよこ」あんぱんです



#Health4All

すみません、時間をオーバーしてしまいました。以上となります。ありがとうございました。

岩本 武石さん、ありがとうございました。。3 番目にいく前に再度お願いなんですけれど、参加者の皆さま、チャットにお気軽に質問、コメント、何でもお話し中でも書いておいていただければ、第2部に役立てられるのでよろしくお願いいたします。3 番目のご登壇で、『山谷における実態と支援活動、大阪あいりん地区の報告も含む』ということで山友会副代表の油井和徳さん、お願いいたします。

油井

山谷における実態と支援活動

－他地域の報告も含む－

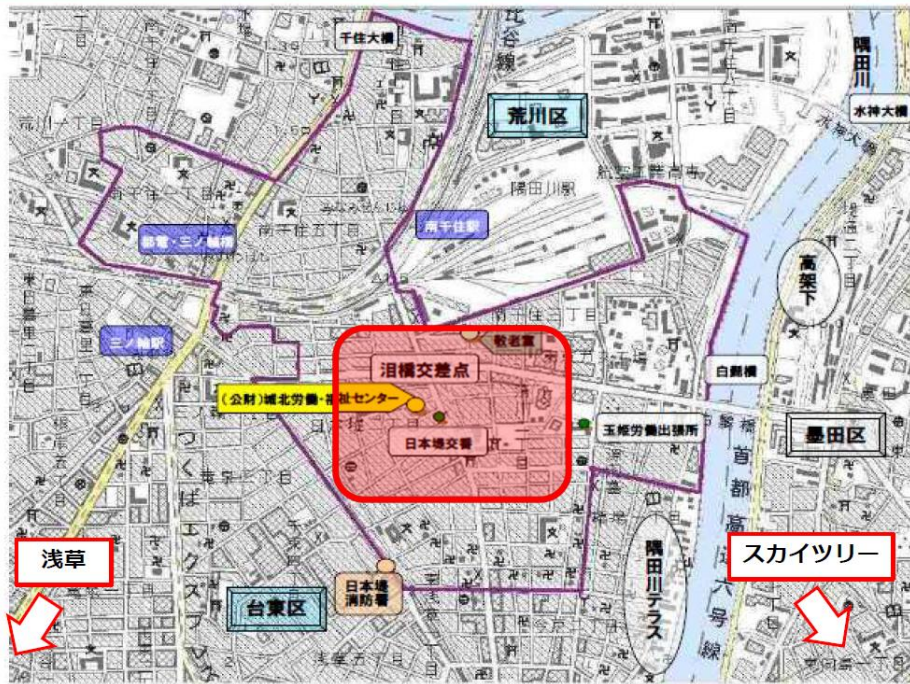


2021.7.30
@みんなのSDGsセミナー
特定非営利活動法人 山友会
副代表 油井 和徳

3

お願いします。東京の台東区でホームレス支援活動を行っている山友会の油井です。今回は、山谷地域や他の地域における路上生活状態にある方へのワクチン接種の実態と支援活動について、ご報告させていただきたいと思います。よろしくお願いします。次のスライド移っていただいていいですか。

山谷はどこにある？



まず、私たちの活動地域である山谷地域の現状と、その中で私たちがどのような取り組みを行っているのかについて、少しお話ししたいと思います。

山谷地域とは東京都台東区、荒川区の両区にまたがって広がる、簡易宿泊所が密集している地域です。簡易宿泊所はドヤという俗称からドヤ街とも呼ばれます。紫色の線で囲っている約 1.65 平方キロメートルのエリアを指します。町名としての山谷というものは、昭和 41 年の住居表示の施行によって消滅しています。特にその簡易宿泊所が密集しているのは、この赤線で囲ってあるエリアです。

「労働者の町」から「高齢者の町」へ

- ・高度経済成長期（1955年～1973年）には日雇い労働者が集住
- ・バブル経済崩壊（H3年）以降は日雇い労働が減少し、日雇い労働者の多くが路上生活へ ※H16年5月 897人→R3年4月 172人

簡易宿泊所（ドヤ）数 **135** 軒（R3年3月） ※S38 222軒

宿泊者数 **3,783** 人（H30）

宿泊者の 生活保護受給率 **89.9** %（H30）

宿泊者の 高齢化率 **68.4** %（H30）

簡易宿泊所という安宿が密集していたことから、高度経済成長期には仕事を求めた日雇い労働者が集中していましたが、バブル経済崩壊以降は日雇い労働が減少し、生活に困窮した日雇い労働者の多くは路上生活に陥ってしまいました。そのあと、東京都の路上生活者対策であったり、民間支援団体の取り組みなどによって、路上生活に陥った日雇い労働者の多くが生活保護制度を利用するようになりました。また簡易宿泊所は、生活保護を受給するようになった路上生活に陥った日雇い労働者だけでなく、居所のない生活保護受給者の受け皿としても活用されるようになりました。現在では約 135 軒ある簡易宿泊所で宿泊する約 3800 人のうち、9 割近くの人が生活保護を受給している状況です。さらに宿泊者のうち約 7 割が高齢者という状況になっています。

山友会の取り組み



相談室

生活上の問題や健康上の問題に対しての相談支援や、地域生活サポート（見守り、関係機関との連絡調整、緊急時対応）を行っています。



食堂

無料診療所の患者さんや相談室の相談者の方など、山友会を訪れた人々に昼食の提供を行っています。



山友荘

介護が必要であることや、病気や障害のため一人暮らしが難しくなった方のための日常生活支援住居施設を運営しています。



山谷・アート・プロジェクト

山谷や路上で生活している方々に写真で自分を表現し、社会とのつながりを感じてもらおうことを目指しています。



山友会クリニック

おもにホームレスの実態にある方など、健康保険証を持たないことで一般の医療機関を受診できない方々を対象に無料診療を行っています。



炊き出し・アウトリーチ

隅田川沿いに住むテント生活の方や路上生活の方々に、炊き出しとアウトリーチ（訪問相談）を行っています。



居場所・生きがいがづくり

プロジェクト

地域の中で孤立せずに暮らすことのできるための居場所と生きがいがづくりをサポートしています。



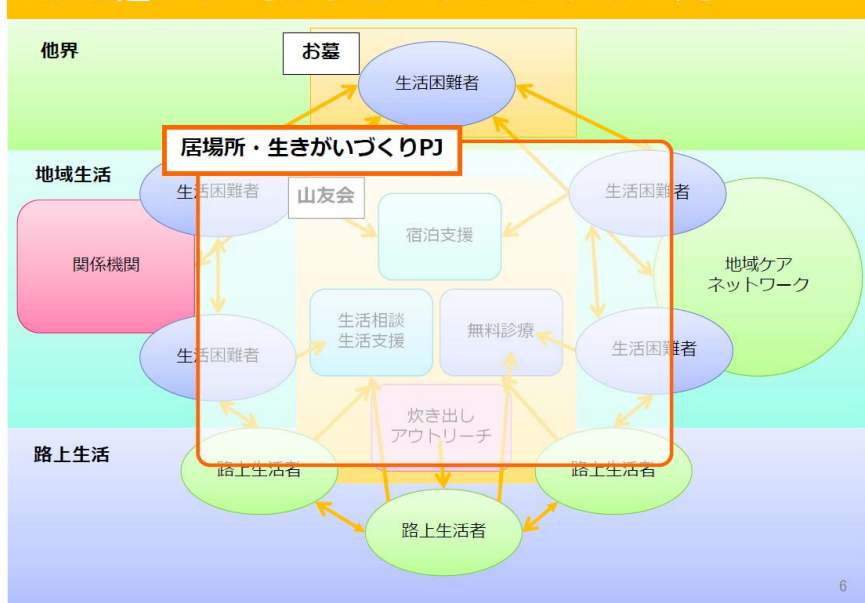
共同墓地の運営

山友会とつながりのある路上生活を経験された方々のお墓を運営しています。

5

この山谷地域の中で私たちは、1984 年に無料診療所の取り組みを始めたことをきっかけに生活相談、簡易宿泊所やアパートなどでの生活に移った元路上生活の方の見守り活動、食堂、炊き出し、アウトリーチ、日常生活支援住居施設の運営、居場所・生きがいがづくり、アート・プロジェクト、私たちと関わりがあった路上生活を経験された方々のための共同墓地の運営などの取り組みを行っています。

支援を通してつながりとコミュニティをつくる



6

こうしたさまざまな取り組みを通して、路上生活という最も社会的に孤立した人々に、つながりとコミュニティを作る活動を行っています。

山谷における実態と支援活動



それでは、この山谷地域における路上生活者へのワクチン接種の状況や、ワクチン接種についての支援活動についてご報告させていただきます。

山谷における実態と支援活動

山谷コロナワクチン接種相談会

- ・「山谷労働者福祉会活動委員会」と「山谷争議団／反失実」が開催。
- ・争議団の事務所を接種券送付先として発行申請を支援。

路上生活者に対するコロナワクチン調査

- ・6月21日「社会慈業委員会 ひとさじの会」が山谷、上野、浅草、隅田川沿いの路上で生活する200名の方を対象に実施。
- ・73人は「接種したい」、48人は「接種したくない」と回答。
- ・接種したいと答えた73人のうち9割以上にあたる68人が「接種券がない」と回答。

路上生活者らワクチン接種券がない人向けの相談会 日雇い労働者の街・山谷で

2021年6月9日 18時30分



新型コロナウイルスのワクチン接種券が届いていない路上生活者などへの相談会が9日、日雇い労働者の街・山谷地域の城北労働・福祉センター（東京都台東区）前であった。相談者からは接種を希望する切実な声がかれた。

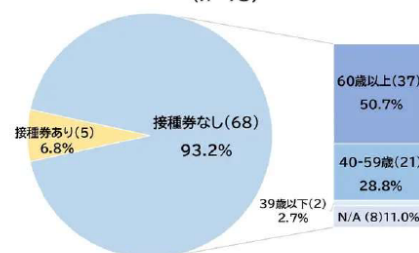
救き出しなどを行っている「山谷労働者福祉会活動委員会」と「山谷争議団／反失実」が開催。約20人が参加した。接種券の申請方法などを確認し合った後、希望者が同区の保健所を訪れて申請した。区によると、争議団の事務所に後日、希望者分の接種券を発送するという。

新型コロナウイルスのワクチン接種券を送付申請書を渡す路上生活者たち。9日、東京都台東区の城北労働・福祉センター前で。

相談会に訪れた路上生活者の男性（68）は「自治体からは連絡も、接種券もない。ワクチンを打てるなら打ちたい」と話した。

東京新聞 2021年6月9日付

接種希望者の接種券の有無と年齢 (n=73)



ひとさじの会実施の調査結果より⁸

山谷地域では日雇い労働者や路上生活者の支援活動を行っている山谷労働者福祉会活動委員会

動委員会と山谷争議団・反失業闘争実行委員会が、6月から炊き出しの際にワクチン接種についての相談会を開催しています。路上生活など居所のない接種希望者については、団体所在地で接種券を受け取れるような支援を行っているようです。20人近くの方の接種券発行申請を行い、接種を済ませた方もいるとのことでした。また、山谷をはじめ、上野、浅草、隅田川沿いの路上生活の方へ夜回り活動を行っている社会慈業委員会ひとさじの会では、6月21日に山谷地域周辺の200名の路上生活の方にワクチン接種に関する聞き取り調査を行っていたようです。調査の結果、200名のうち73人に接種希望があり、そのうちの9割以上は接種券がないというような回答があったとのことでした。

山谷における実態と支援活動

山友会の取り組み

簡易宿泊所宿泊者やアパート生活者の接種支援を行ってきた（約70名）

接種券発行支援

- ・接種券を紛失した場合の再発行
- ・優先接種対象者の発行手続き補助

接種予約支援

- ・接種予約の補助
- ・ワクチン接種についての相談

接種状況の確認

- ・来所時や訪問時に接種状況を確認



私たちは山谷に暮らす
みなさんのワクチン接種を
応援しています

- ・住民票がなくても大丈夫、野宿でも大丈夫です
- ・ワクチンを打ってみようという方、私たちが相談にのります
- ・まだワクチンの接種券が届いていない方、野宿で接種券を受け取れていない方、相談してみてください

山谷労働者福祉会館活動委
山谷争議団・反失業
台東区日本堤1-25-11
毎週水曜日朝9時～
毎週日曜日午後3時～
この時間に山谷のセンター前で、
ワクチンの相談会をしています

山友会
台東区清川2-32-3
月～金曜日10時～15時
※ワクチンを接種しても大丈夫かど
うか不安な方もご相談ください。

※山谷労働者福祉会館活動委員会／山谷争議団・反失業 作成

今後は路上生活など居所のない方への接種券発行支援も行う予定。

※本人確認は利用者カードや団体所在地での居住証明書の発行により行う

山友会では、簡易宿泊所宿泊者やアパート生活者、日常生活支援住居施設の入居者への接種支援を行ってきました。現段階で約70名近くの方の接種支援を行いました。具体的には接種券を紛失した場合の再発行や、優先接種対象に該当する方への接種券発行手続きの補助、接種予約の補助のほか、ワクチン接種についての相談対応、接種予約が取れた方への接種状況の確認などを行っています。山谷地域の現状でお話ししたとおり、山谷地域は高齢の方や基礎疾患がある方など、重症化リスクの高い方が多く生活されていることや、簡易宿泊所はトイレや浴室など共用設備が多く感染リスクが高い生活環境であることから、簡易宿泊所宿泊者へのワクチン接種を勧めていくことも重要な点であると思っています。

接種券発行や接種予約の補助については、管轄の地域包括支援センターやケアマネジャーの方などもフォローしてくださっています。先ほどご報告させていただいた、山谷労働者福祉会館活動委員会やひとさじの会とも連絡を取り合っており、スライドのようなちらしを作って、それぞれに炊き出しや夜回りのときなどにワクチン接種を呼び掛けるような取り組みが始まろうとしています。こうした地域の他団体とも連携をして、山友会でも今後は、路

上生活など居所のない方への接種券発行支援を行っていく予定です。

台東区の対応

「住民票・戸籍に記載のない場合のワクチン接種について」

- ・ 宿泊証明書や生活保護受給証明書があれば接種券発行申請が可能
- ・ 路上生活の人への対応については協議中



活動地域を主に所管する台東区では、6月10日に住民票、戸籍に記載のない場合のワクチン接種についての案内をホームページで公開しています。住民票、戸籍に登録のない場合でも台東区に居住している方は、簡易宿泊所の宿泊証明書や生活保護受給証明書など、台東区に居住していることが確認できる書類があれば接種券発行が可能となっています。また山友会は、台東区から路上生活者巡回相談事業を受託していることから、路上生活者対策担当部署他、関係部署や自立支援センターなどで構成される会議に定期的に参加していますが、その会議においてもワクチン接種担当部署も含めて、路上生活者の方へのワクチン接種をどのように進めていくかなどについて意見交換を行ってきました。その際には、先ほどお話ししたような支援団体の取り組みや聞き取り調査の情報などを提供し、民間支援団体と行政との橋渡しのことを行ってきました。

現段階では路上生活の方に関してのワクチン接種の具体的な対応については、台東区としては公式には協議中ということなのですが、区議会で路上生活の方へのワクチン接種も進めていくとの報告が、ワクチン接種担当部署からなされたという話を聞いています。

他地域の状況



次に他の地域の状況についてもご報告させていただきます。

他地域の状況

地域	取り組み状況
釜ヶ崎 (大阪)	・ あいりんシェルター利用者に対する新型コロナワクチン接種聞き取り調査（4月） ・ あいりんシェルター利用者への接種券発行支援 ・ 釜ヶ崎とその周辺の路上生活者へのワクチン接種支援 ※あいりんシェルター施設長に（再）発行手続きを委任 ※接種は地域の医療機関
笹島 (名古屋)	・ 炊き出し時に住民登録がないなどで接種券が届かない人の状況をヒアリング ・ ささしまサポートセンター協力医療機関でのワクチン接種 ※ささしまサポートセンターに住民登録がある人のみが対象（特例）
仙台	・ 路上生活者自立支援センター、無料低額宿泊所運営団体6団体、仙台市担当課、生活自立相談センターによる定例会議にて意見交換。（7月） ※受付窓口は市内5団体のいずれかとし、市内各区を通じて接種券発行申請を行う方向で調整中。申請住所は窓口団体の所在地。

※発表者調べ（各地域支援団体従事者への聞き取りなど）

12

まずは山谷と並び日本有数のドヤ街として知られる、大阪の釜ヶ崎の状況です。釜ヶ崎はあいりん地区とも呼ばれています。あいりんシェルターという大規模なシェルターがその地域の中に設置されているのですが、4月には、そのあいりんシェルターを運営する釜ヶ崎支援機構という団体が、シェルター利用者に対するワクチン接種の聞き取り調査を行いました。調査では9割以上の方に接種希望があるということと、うち半数以上の方に接種券発行が必要であるということが明らかにされています。

釜ヶ崎支援機構という団体では、シェルター利用者への接種券発行申請も行っています。シェルター利用者は、65歳以上の高齢者が多数利用しているということから、高齢者施設に準ずる施設として位置付けられ、地域の医療機関との連携によって、医療従事者向けワクチンの余りを活用して接種を進めてきたようです。65歳以上の高齢者約90人が、7月上旬

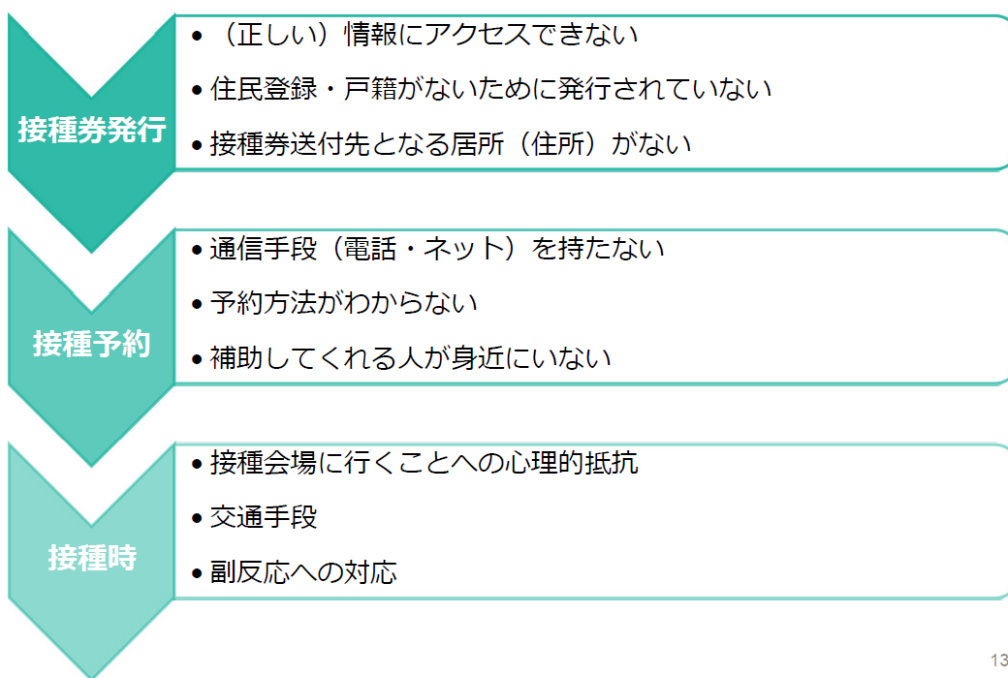
までに 2 回目のワクチン接種を済ませられるまでに至っているようで、シェルター利用者の接種率 40 パーセント以上に達しているということでした。また、路上生活の方に関しても、大阪市では 6 月 15 日から市内 24 区については各区役所の総務課が担当して、住居が不安定な方に対する接種券再発行の受け付けを開始しているようです。そして再発行希望者に対しては住民登録のあるなしや、その場所にかかわらず、大阪市が接種券を発行するようになっているようです。

本人確認書類のない方で、釜ヶ崎支援機構が接種支援に携わった方については、大阪市福祉局が身分を証明するという文言が記載された書類を作成して、それを本人確認書類としているようです。また接種を呼び掛けるチラシを巡回相談員と夜回り団体が配布しているようで、夜回り団体分としては 7 月 28 日までに約 1000 枚配布する予定になっているというように聞いています。また再発行申請者は、自力で接種予約ができる環境にないことから、キャンセル分を融通していただくなどして、近隣の医療機関に依頼をして接種まで段取りしているというふうに聞いています。現在 4 人の方が再発行申請して、うち 2 人は接種が行われたようです。

次に名古屋の笹島状況です。名古屋駅近くにも、かつて日雇い労働の方が多く集まる笹島という地域がありました。この地域でホームレス状態にある方などの支援活動を行うささしまサポートセンターという団体は、炊き出しの際に住民登録がないなどで接種券が届かない方の状況をヒアリングしているということでした。また特例的な対応のようですが、ささしまサポートセンターの理事長を務める医師の診療所で、団体事務所に住民登録があったために接種券が届いた方のみを対象にして、ワクチン接種を行ってきたということでした。

次に仙台市の状況です。仙台市の路上生活者数は 2020 年 1 月の段階で約 70 人とされており、東北地方でも比較的、路上生活をされてる方の多いエリアです。仙台市には路上生活者をはじめ身寄りのない生活困窮者の方々に幅広い支援活動を行うワンファミリー仙台という団体があります。仙台市では路上生活者支援センター、市内の無料低額宿泊所というシェルターを運営する 6 団体、仙台市の担当課、生活自立相談センターによる定例会議の場で路上生活者へのワクチン接種についての意見交換が行われたようです。7 月の段階では、受付窓口を市内 5 団体のいずれかにして、市内各区を通じて接種券発行申請を行う方向で調整をしているという状況のようです。

路上生活者へのワクチン接種をすすめる上での課題



13

最後に、山谷地域を含めて他の地域の状況も踏まえて、先ほど武石さんのお話にもありましたが、路上生活の方へのワクチン接種を進める上での課題について、整理して終わりにしたいと思います。接種に至るまでの過程は接種券発行、接種予約、接種とそれぞれの段階があると思いますので、それぞれの段階で整理してみました。まず接種券発行の段階での課題です。ここの段階では、路上生活にある方はテレビとかインターネットなどによって必要な情報にアクセスできないということや、住民登録や戸籍がないために接種券が発行されていない。接種券の発行申請を行うとしても、接種券の送付先となる居所がないということが上げられると思います。

次に接種予約の段階です。この段階では、接種予約を取る際に電話やインターネットなどの通信手段を持たないということがまず上げられると思います。そして、これは路上生活の方に限ったことではなく、地域で暮らす高齢者世帯の方などにもいえることだと思いますが、予約方法が分からないとか、予約を手伝ってくれる人が身近にいないということが上げられると思います。最後に接種時です。接種まで至った方自体がおそらく少ない状況と考えられるので、この段階での課題っていうのはまだ把握しきれないところではあると思いますが、今までの人生の中で病院に行く機会が少なかったり、過去に病院で差別的な対応をされたということで、接種会場になってる病院に行くことへの心理的な抵抗を感じる方もいらっしゃるのではないかと思います。

あとは、あってほしくないことではありますが、身なりが汚れていることで、接種会場で

周囲の方から差別的なまなざしを向けられてしまったり、本人確認を含めてイレギュラーな対応になってしまうので、接種会場で混乱が起きてしまうことが心配されるところかと思っています。また接種会場が遠い場合は交通費と交通手段がないということも考えられるのかなと思います。また、これは一番心配されるところですが、発熱などの副反応が出た場合の療養環境とか、対処療法をいかに確保していくかということも、一つの課題なのかなと考えています。以上で私からの報告は終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

岩本 油井さん、ありがとうございました。3人のかたがたにご登壇いただいて、それぞれの立場からお話をいただきました。皆さま、ここでちょっと1回深呼吸をして、休憩はないんですけど第2部に移りたいと思います。第2部は、パネルディスカッションという形で意見交換をしたいと思います。今、一つチャットもいただいているんですが、引き続きご自由にチャットにコメント、質問を書き込んでいただいて、それを基にパネルを進めていきたいと思っております。モデレーターは、シェア＝国際保健協力市民の会、共同代表の仲佐保さんです。それでは仲佐さん、よろしくお願いいたします。

—————第二部：パネル討論—————

仲佐 3人の登壇者の方、どうもありがとうございました。今回、日本人ということで話を進めていくんですけど、いくつか共通の課題があったように思います。第1として情報を届けること、もしくは届いてないということ。2番目には、ホームレス等の方でワクチンをしたくないという方がそれなりに、一般より多いのではないかと思います。まず一つ目の情報が届かないと。それぞれ厚労省からも出て、協力して情報を届けるということがされてますが、なぜ情報が届かないかっていうことをもう少し深く、3人の方にコメントいただければうれしいんですけど、いかがでしょうか。

武石 じゃあ、私からちょっと。ちらしとかに関してになるんですけど、ワクチンのことに限らず、ビジネスホテルの利用ですとか、何か今回、コロナ禍で特別な措置である制度に関して、本当に情報が届いてなくて。いろんなところにちらしはありますと、ワクチンのことも保健所に行けばちらしがあります、市役所に行けばありますっていうところなんですけれど、じゃあ、その市役所が開いてる時間、役所が開いてる時間にそこに路上の方たちがアクセスするかっていうと、なかなかそうではないというところですか。

割とスマートフォンを持ってらっしゃる方、WiFiがないとつながらないんですけど、そういう方はそういったもので調べたりはされているんですけど、支援情報を自治体のホームページにいたり、ワクチンの情報を調べるとなっても、私でも自分の自治体の情報を調べるときに、とても情報にいきつかないっていうところだと、優先順位が仕事探しが一番

上だと、そういった情報にいきつくには労力がかかるので届いていないっていうのがあるかなと思いました。あと2点目は間違った情報が届いているっていうのもあります。後ほど多分、お話しできればと思いますが。

仲佐 武石さん、先ほどもなかなか2回目のアンケートでも情報がなかなか届いてないみたいなんですけど、その辺のほうはどうですか。

武石 2回目のアンケートも、でも、無料でというのを知っていますかっていうところを聞いたところ、知らないっていう答えが、既に182人の回答者のうち21人が無料と知らなかったって。結構、1回目には聞いてないんです。1回目のアンケートでは、その質問はしてなかったんですけど、知らない、保険証がないと受けられないとかそういった声が聞かれたので。そこも明確に、当たり前知ってるかなと思う情報も、何かしらしっかり明記、知らせていかなきゃいけないんだっていうのはアンケートから分かったことです。

仲佐 大石さん、どうでしょうか。

大石 まさに今、武石さんからご紹介があった部分が大きいのかなと思っています。ワクチン接種の情報提供の主力は市町村からのお知らせになるので、どうしても、住民票があればある意味、自動でチラシが届いてそこに無料っていうことは書いてあるので分かるんですけども、なかなか自治体から手を伸ばすというか、直接接するのが難しいという部分で課題が生まれているのかなと思っています。もうちょっといろんな形で周知ができればという部分はあると思うんですけど、正直こんな大規模なワクチン接種は今までやったことがなくて、本当にぎりぎりの状態の中でご尽力いただいてかなり接種が拡大してきているというところではあるものの、どうしても資源が限られている部分もあり、なかなか届いていない部分が発生しているのかなというのが思うところです。

仲佐 油井さん、どうですか。山谷などにはかなり昔から支援団体があるということは情報が届きやすいってことと考えていいんでしょうか。

油井 そうですね。支援団体があるかどうかというのは大きなポイントかなと思います。山谷地域や釜ヶ崎、池袋、新宿などのようにホームレス状態にある方が多い地域は支援団体も多いので、それだけ情報を届けようとする人が多いというのはあると思います。ただ、地方だと1人、2人しかホームレス状態にある方がいないような自治体だと、ホームレス支援団体もないことが多いでしょうし、すると、なかなかそういった情報は届きづらいのかなと思います。

仲佐 例えば、先ほど豊島区でも全国福祉協議会の方が支援してくれるって話も出たんですけど、全国福祉協議会って日本中にありますよね。災害のときにそういう人を支援してくれるってあるんですけど、そういう人たちに協力してもらおうっていうのはどうでしょうか。

油井 僕ですか、ごめんなさい。

仲佐 いえ、どなたでも、大石さんでもいかが、どう思われますか。

大石 各方に情報を届けるためには、いろんな支援団体を通してやらないとなかなか届かない部分があると思うので、できれば、ぜひいろんな方の協力をいただきながら進めていければなというのは思いとしてはあります。

仲佐 今、視聴者の方からちょっと質問で。ホームレスの人が近づきやすい媒体として、競馬新聞とかがあり、そこに情報載せたらっていうご意見が出てるんですがどう思われますか。

大石 新聞の広告は出していて、国から出しているの細かい情報というよりは、もっとざくっとした大きな情報なのですが。ちょっとその中に競馬新聞が入ってたかどうかは今、ぱっとは分からないんですけども。

仲佐 入ってないですね。

大石 なるほどという視点をいただいたので、ちょっと参考にさせていただきたいなと思います。

仲佐 もう一つ質問ですけれど、ホームレスにはいろいろなカテゴリーというかタイプがあるんじゃないかと思うんですけど。いろいろ人によって情報の行き方が違うんじゃないかというご意見が出てるんですけど、いかがでしょうか。武石さんも豊島区でやってますが、一つじゃないんじゃないんですかと。

武石 豊島区で、そうですね。特に私たち、今後、課題だなと思っているのはまだ炊き出しにいらしてる方には情報が届けられるんです、私たちも。その400人ぐらいの方とかあとアウトリーチで夜回りに会う方、あと豊島区の巡回相談の方が周知できるんですけど、そういうところにいらっしゃらない、ネットカフェで寝泊まりされてる方ですとか、主にネットカフェかなと思うんですけど。そういったところで寝泊まりしながらお仕事をされてる方っていうのは、情報が届きにくいという実感があります。

よく TENOHASI の、TENOHASI でよく話に出るんですけど、ビジネスホテルに泊まれる、無料で緊急事態宣言の間に泊まれるっていう情報も、それこそ Yahoo!ニュースのトップにでも出ない限り情報が届かないよねみたいな話はよくしてたので、そういうネットのぱっと目につくところに何か宣伝ですとか、そういったニュースになって、そういった方たちに情報が届いたりとか。また、もうちょっと人海戦術ですけど、各ネットカフェにちらしを置かしてもらおうとか、そういったことは今後、必要になってくるのかなと思います。なので、確かにアンケートだけでは分からない、他にいらっしゃる方たち、住居不安定の方っていう上のアクセスっていうのは、ご質問にも出てるように課題だなと思っています。

仲佐 ありがとうございます。あともう1点、先ほども話をしたんですけど、とても怖がってる人が多いようなアンケート結果等が出てるんですけど、そのことに関しては特に武石さん、どうですか。なぜ、そんなに多いんですか。

武石 そうですね。情報が届いてないというのもありますし、単純に怖いっていうのは、私自身も自分のことを自分でワクチン接種するかしないかって当初、最初考えてたときに、情報がないと怖くてする気になれないっていうのは同じ気持ちだったので、全く同じ状態ですし。そこにきて住まいが安定しない中で、じゃあ、副反応で発熱とか痛みっていうのは、かなりニュースにもなっていたり、うわさにももちろんその路上の方の中でうわさにもなっているので、そこで不安っていう方は多いのは、一般と比べてっていうのはちょっと分からないんですけど、あるなっていうのは実感としてありました。

ただ、アンケートのボランティアさんたちが、そういった不安なときに、いや、こういうふうに豊島区、今、考えてますよとか、その副反応のことに限らずなんですけれど、安心して受けられるように取り組みをしていますみたいなお話をすると、それならちょっと受けてみようかなみたいな、受けたくないって最初はいていたんですけど、そういう環境なら受けられるかもしれないし、自分もよくよく、仕事に行くのに打ちたいよとか、打って安心して仕事にいきたいよなんていう声もあったので、そういったところでまたちらしだけではなく、対話が必要なんだなっていうのもアンケートからすごく分かってきたことです。

仲佐 油井さんのほうもどうですか。山谷とかそういうところの方で怖がってる方多いのか、それともそうでもないのか。先ほどあいりん地区ではそうでもないようなデータだったんですけど、いかがですか。

油井 ホームレス状態にある方でなくともワクチンに対して誤解されてる方とか、デマを真に受けてしまう方もいるようなので、正しい情報が伝わってなくてワクチンが怖いと思われてしまっている方もいるのかもしれない。ただ、信頼している人から案内されたり接種を勧められると、受けようかなと思ってくれるというのは、現場の感覚としてはありま

す。

仲佐 先ほど油井さんも話してましたが、もともと病院とかに行っても相手にされないとか、そういう背景もあるというのは最も感じられるところなんではないでしょうか。

油井 そうですね。ワクチンを接種するしない以前に、そもそも病院に行きたくないということや、以前に救急車で運ばれたりして入院したときに差別的な対応をされたなどとかで、医療とか医療者自体を信用していない人もいますので、そこはじっくり時間をかけて信用していただくようにするしかないのかなと思います。

仲佐 最近では割とワクチン接種で協力してくれるような開業医の方もいらっしゃるようなんですけど、そういう方を近くで見つけるとかそういう可能性はあるんでしょうか。

油井 山谷地域は簡易宿泊所や日常生活支援住居施設というケア付きの施設に訪問診療している診療所もいくつかあるので、事情をご理解いただいて接種にも柔軟に対応してくださるところはあります。

他の地域で、地域の診療所に協力を求めても、そもそも路上生活状態にある方に理解があるのかということや、そうした方のワクチン接種に柔軟な対応をすることにインセンティブがあるのかどうかというところでは難しいのかもしれませんが。それよりも、行政の接種会場でのシステムにいかに柔軟な形で組み込むかっていうふうに考えたほうが効率的だと思います。

仲佐 その辺のところは大石さん、どうですか。

大石 おっしゃっていただいたとおり、どうしても接種会場って地域によっていろんな形でやっていたりするので、一律にこれと示すのはなかなか難しいんですけれども、自治体のほうで設けている接種会場があって、例えば予約を取るときに、まずここに予約してみましようみたいな形でお知らせしていただくのはありだと思います。あと、これは地域になるので、例に上がっていたような、そういったことにそもそもなじみがない地域だとあんまり当てはまらないかもしれないんですけれども、例えばアイデアとしては、普段からそういう支援を行っている理解のある医療機関があれば、特にそこで積極的に引き受けていただくようにご調整いただいたりとか、そういった形でより受けやすくするということはあるのかなと思います。

仲佐 ありがとうございます。あと、武石さんのお話の中で、結局、問題はワクチンだけではない、貧困であるとか仕事がないことが問題である。食料であるとか医療も含めたそう

いう支援もセットでやっていかないといけないんじゃないかなと少し思ったんですけど、その辺は武石さんのほうでどうですか。

武石 そうですね。今、いろんな、私たちも普段はワクチンのことは今回取り組んで、新しい、近々でやらなきゃいけないってことで取り組んでいるんですけど。普段やってる支援活動を、私たちはハウジングファースト型ということで続けているんですが、そういったところをもっともっと、そうですね、行政にも周知、そちらの支援の周知も協力していただきたいし、生活保護の利用申請が大体、利用申請をすることになるんですけど、そこで申請へのハードルみたいなのがあって、そこで諦めてしまう人がいる。そうするとワクチンも、ワクチン接種についても自動的に諦めざるを得ないみたいな状況になっているので、そういったところはずっと、先ほど確かご質問のコメントのところにもありましたけれど、その行政への忌避感とか、そういう社会への不信感っていうのがそのワクチン接種へのハードルにもなっているっていうのは事実なので、ここで国が行政が今、皆さんのことを本当に大切に考えてますという示すチャンスじゃないかと思ってます。

ワクチン接種っていうのは、本当に日本にいらっしゃる全ての方が、年齢はちょっとありますけれど、全ての方が受けられるものであって、それに対する課題があればそれは解決していかなくちゃいけない、アクセスできるようにしていかなくちゃいけないところで見せていくというか。そこで、さっき油井さんもおっしゃってましたけど、信頼できる人にいわれると、その情報が信ぴょう性があるとか安心感につながるっていうのは本当に多いにあるので、そこにつながって、1人でも多くの人が支援につながっていけるんじゃないかとは思いますが。

仲佐 それに関連して武石さんに質問があるのですが。先ほど、アンケートの調査の結果の中で、自己責任でやっているのでコロナにかかって死んでもいい、死ぬのを待ってる、もう十分生きたからいいと返答されてますが、それって本心なんですかということですが。

武石 そうですね。本心かどうかっていうのはまた、もっと深く話を聞いてみなきゃ分からないっていうのが、今、油井さん笑ってらっしゃいますけれど、私もそこは本心とは今のところ断言はできません。少なからず、もう十分生きたからみたいな、そういう穏やかにお話される方もいるのは事実で、もういいよいいよっていう方もいらっしゃるのは事実です。ただ、諦めてっていうのは一定数あるとは思いますが。

仲佐 この辺、油井さん、今までの経験からいろいろあると思うんですけど。

油井 そうですね。ワクチン接種に対してのこういうコメントが本心なのかどうかということも考えないといけないと思います。僕らも他人に話したこと全て本心かっていうと、そ

うとも言い切れないはずですよ。

仲佐 そうですね。

油井 だから、それを聞いた側がどう捉えるかってことが大事なのかなと思います。そうなんだなと思ったらそれで終わってしまうかもしれないけれど、本当にそれでいいのかなって聞いた人が感じたのであれば、本当はどう思っているのか考えたり、また別の機会に改めて聞いてみたりということが積み重なってくると、ご本人が誰かに心配してもらえていると感じて前向きに考えるようになるということもあると思います。

仲佐 また質問がありまして、大石さんかなと思うんですけど。支援対象、このホームレス等の人たちの感染率のようなデータはあるんでしょうかっていうことですが。

大石 すみません。私が知ってる限りは、ホームレスの方がどのぐらい感染しているかという数は把握していないところです。ただ、前、見かけた記事だとホームレスの方の感染を取り上げているものはあったかなと思います。

仲佐 油井さん、どうですか。先ほどの質問された方から、そのような感染例があると少し怖がるのか、それとも実施するようになるのかと、その辺の情報ってありましたか。

油井 今のところ、身近な路上生活の方が感染した事例は把握していません。ただ、実際のところはわからないような気がします。路上生活の状態で検査だけ受けるということはかなり難しいですし、急変して救急搬送されて搬送先で陽性が判明するというのは考えられますが、その場合は把握がかなり難しいのではないのでしょうか。

行政と連携関係のある支援団体などが、行政などに問い合わせてみたら、新型コロナウイルス感染症で入院していたのがわかるということはあるかと思いますが、救急搬送された時点でわからなくなってしまうのが現実ではないのでしょうか。なので、例えば、感染した路上生活の方の近くで野宿をしていた人が、身近な人が感染したことがワクチン接種の動機付けになったというのは考えづらいと僕は思います。

仲佐 ありがとうございます。あともう一つ、山谷であるなどのホームレスの方とネットカフェ難民って、ちょっと対象も違って年齢も違いますよね。ネットカフェ難民への対策とホームレスの方への対策、どうも違うんじゃないかと思うんですけど、その辺はいかがでしょうか、大石さん。

大石 そうですね。ホームレス状態の方で、かつ支援団体につながっている方だと炊き出し

などのいろいろな機会、あとは巡回相談とかで接することができる一方、ネットカフェ難民といわれるような方についてはアクセスがなかなかしづらいというのは、われわれも感じているところです。かつ、そのネットカフェにいる人も、みんながみんな困っている人というわけではなくて、一時的に利用している方もいるので、一律にお知らせすると、なんで自分がこんなお知らせ受けてるんだろうみたいなのを感じてしまいかねないなど、なかなか難しい点があるなというのはあって、ちょっと実際、われわれも頭を悩ませているところです。

その中で何ができるか、なかで相談しながら考えたときに、ご協力ベースにはなってしまうんですけど、お店にチラシとか置いてもらって、まず興味のある人がきちんと情報にアクセスできるようにする必要があるよねということで、そういった方法を 7 月の事務連絡でお知らせさせていただいたという部分があります。ここはなかなか、どうやったらうまくいくのか頭を悩ませながら進めているところなので、ぜひ、アイデアなどがあれば教えていただけるとありがたいなと思います。

仲佐 油井さんとか武石さん、それに関しての何かアイデアとかありますか。視聴者の方ももし何かアイデアがあれば、チャットに書いてくれるとうれしいですが。

油井 ネットカフェの人にどう情報を届けるかというアイデアですか。

仲佐 そうです。

大石 そうですね。ネットカフェの方以外でも、情報にアクセスしづらい方に情報を届けるときに思いつくのは、チラシを置きます、ポスター貼ります、が大体かなと。支援団体がいればその方を通じて行うこともできるんですけども。ノーアイデアの状態であってしまっていて申し訳ないんですけど、何かこういういいやり方があるよとかあれば教えていただけるとありがたいなと思います。

油井 ネットカフェで寝泊まりしている方など若年層の方に支援の情報を届けるときに、インターネット広告を使っているところがありますよね。ワクチン接種のことはターゲットがかなり限定されていると思うので、その特殊なターゲットにだけ広告を表示させるには技術的にどうすればよいのかというのは分らないのですが、一つの方法かもしれないですね。

大石 ありがとうございます。

仲佐 視聴者の方の意見で、例えば、女性のトイレに置くとかいうのがいいんじゃないかと

というのが意見として出て。昔、コンドームを配布したり、ドメスティックバイオレンスの方のためには女性のトイレっていうのは、なかなか置く場所としていいという意見も出されてます。

大石 ありがとうございます。

仲佐 ありがとうございます。もう一点、出てたのが、武石さんのお話の中で、実際に炊き出しに来る人の中には、ホームレスではない人もかなりいるという点です。分かりませんが、山谷にしてもホームレスの人だけじゃないわけですね。そういう人たちもなかなか実際に接種も困難ということがあったんですけど。その辺について、何かご意見とか考え方ありますでしょうか。特にその対策っていうか、そういう人たちをホームレスの人たちと同じように考えてやるのか、そういう人たちが本当にワクチン接種に行くのかどうかもちょっと分からないんですけど。その辺の何か意見がありましたら、武石さんのほうでありましたらどうでしょうか。

武石 もともと豊島区はいち早く、6月の時点で、この豊島区の社会福祉協議会が予約のお手伝いですとか、それこそ再発行申請のお手伝いなんかも地域の方に向けてやるっていうことで、例えば、コミュニティーソーシャルワーカーさんがそれを担ってみたいりですとか、そういったところ取り組みが既にありまして。ただ、それを実際に周知をどれぐらいできてるかっていうのは、そこが1番目の課題と同じであったので、そこを私たちは1回目、お手伝いをしたんですけど。そうですね。さらにハードルがあるのは、そういった地域の相談場所があってもそこにまたアクセスできない、でも、炊き出しには来るみたいな方たちは、私たちがなんとかできるかなっていうところで。そうですね。

ちょっと話ずれちゃいますが、その地域の方たち、例えばお一人で生活されてる高齢の方なんかも同じような困難は抱えてらっしゃるっていうのは、もう自治体で既に認識してるのでこういう取り組みがあるっていうことで、もう既にこれは自治体の取り組みなどでとてもいいなと思っていますし。そういう方たちが社会福祉協議会は、地域で困難を抱えた方といかにつながるかっていうので、今回もワクチン接種が第1の目的、みんなにしてほしいっていうのが目的ではなく、ワクチン接種で困難を抱えている、イコール普段の生活でも何か困り事があるんじゃないかっていうつながりを作れるっていうことで取り組みをされてるっていうのは社会福祉協議会から聞いたんです。

なので、ぜひ、豊島区の社会福祉協議会の活動が他の地域につながるといいなと思って、今、炊き出しの公園で相談ブースを出してくれないかっていう提案をしたところ、実は先週の土曜日、炊き出しのところに豊島区から4人の方が参加してくださいまして、視察に行きますとってくださいまして、さらにアンケートにもご協力いただいて、実際、生の声を聞いていただいたっていうことがありました。その中で今後、一緒に考えていきたいと思います。

うことで、できれば、東京都広いですので、炊き出しの場所も豊島区の方だけじゃないのでいらっしゃるのが、東京都の社会福祉協議会と協力できたらなっていう話がもう既に出てるので、それが本当に全国的に一つ的手段として広がっていったらいいなと思います。なんかちょっとご質問の趣旨とずれてしまったかもしれません。

仲佐 油井さん、いかがでしょうか。

油井 そうですね。ワクチンを接種するかどうかについてということに関しては、ホームレス状態にある方でもそうでなくとも、必要なことだと思うので、そういう意味では炊き出しというのは、よいきっかけになっているのではと思います。世界の医療団さんやTENOHASI さんが行われている炊き出しには、たくさんの方たちが来ているということなので、路上生活でなくともワクチン接種に関する情報や支援にアクセスしづらい方たちに対して接種を進めていくっていう上では、とてもよい機会なのではないかと思います。

仲佐 もう一点ですけれど。実際、山友会とか都会はいいのかもしれないですけど、都会ではない、地方で孤立してるそういう人たち、ホームレスとかそういう人たちに対してはなかなか難しいかなと思うんですけど。何か方法はありますか。

油井 今回、さまざまな地域の実践を伺って思ったのですが、進んでいるところは問題意識が高いと感じました。接種券発行や接種予約受付の作業やワクチン供給の調整などで手一杯の自治体が多いのが現実なのだと思いますが、そうした状況が落ち着いてきたときには、いかに接種できていない人に接種できるようにすることへの問題意識が大きく影響すると思います。

釜ヶ崎や東京のように路上生活の方が多くいる自治体に関しては、問題意識が持ちやすいのかもしれないです。厚労省も今回かなり踏み込んだ事務連絡を出してくださっているので、あとはそれをやるかやらないかという部分が大きいのかなと思うのですが、路上生活の方が少ない自治体だと、よほどの理由や圧力がない限りは問題意識を持って動き出せるところは少ないのではないのでしょうか。

各自治体の取り組み状況は、大石さんの方で把握されていますか？

大石 この間の事務連絡は、よくやり取りするような自治体に聞いてみて、こういったのがあるよと教えてもらって、かつ、の許可をいただいて周知させていただいたところでして。その他の自治体の事例について網羅的に集められているかというところではなくて、調査項目も多過ぎると逆に負担をかけてしまうのでちょっとずつ、まさに本日もいろんなグッドプラクティスを教えていただいたので、こういった形で収集していければというところになります。

油井 すみません。話しづらいことを聞いてしまって。

大石 いえいえ。ありがとうございます。

仲佐 ありがとうございます。ちょっと戻りますけど、先ほどネットカフェ難民の方で、視聴者の方から少し意見が出てまして。ネットカフェ難民のは若い人もいるということで、情報のソースとして Twitter とか Facebook 等が多いので、そういうところを通じて知らせるってというのがいいのではないかという意見が出てました。

大石 ありがとうございます。確かに、ネットカフェならネットがあるなと思いますし、若年者だとインターネットに触れる機会があるので、ちょっとその辺りを活用しつつと思います。ただ、先ほどの話にも出たんですけども、政府の公式 Twitter とかだとなかなか、そもそも国に不信感がある方にはフォローされないという課題があると思っています。そこで、国としても若者になんとか訴えかけられないかと考えて、いわゆるインフルエンサーの方とコラボして情報届けたりし始めてはいるところでした、そういう方法で、直接、国からだと届きにくい部分もあると思うのでいろんなツールで伝えられたらいいなと思います。アイデアをいろいろいただきまして、本当にありがとうございます。

仲佐 国って嫌がる人も多いかもしれないですからね。

武石 今、一つ、インフルエンサーっていうので、世界の医療団、実は今、ラオスで活動して、ラオスも今、ちょっと感染者がずっとゼロだったのが増えてきて。そこで、ワクチンのことではまずなくて、最初に感染予防の話で手を洗うとかマスクをしましょうとか、フィジカルディスタンスを取りましょうとか、そういった話をどう伝えたらいいのかっていうので、若者にインフルエンサーの TikTok の動画を配信したらすごく、すごい勢いで見てもらえたとかそういうのはあって。そういったインフルエンサーにご協力してもらっているのは、いいんだなっていうのは今、大石さんの話を聞いてて、そういえばラオスやっていたなっていうのを思いました。

大石 ありがとうございます。

仲佐 質問がありまして、多分、これは油井さんと武石さんかなと思うんですけど。普通、路上生活者の方はどこから情報を得てるんでしょうかっていう点なんですけど。多分、お二人、よく知ってると思います。いかがですか。

油井 先にじゃあ、ごめんなさい。

仲佐 油井さん、お願いいたします。

油井 年代とかによっても結構違うのかもしれませんが、年配の方だと一緒に野宿をしている仲間とか、同じ仕事行った仲間から教えてもらっていることが多いと思います。炊き出しやアウトリーチで届けている情報で支援にアクセスするよりも、当事者の方同士の口コミで相談に来てくださっている方の方が多様な気がします。僕らは若年層の方との関わりは少ないのですが、若年の方だとインターネットで情報を得ている方が多いのかもしれない。厚労省の公式 Twitter を見てるかどうかというのは、わからないですけど。

仲佐 武石さん、どうですかね。

武石 全く同じで、ご高齢の方は本当、口コミっていうのは大きいなと思います。ちらしもしつこいほどに毎週のように配って、炊き出しの情報を配っていて、それを握りしめてる方たちが何人もいらしたりとか。最近、夜回りに並ばれる方がちょっと増えてきて、若年層の方たちは、インターネットの支援団体の炊き出し情報とかでここがあるって知ってきましてたっていう方がちらほら、毎週のように新規の方がいらっしゃるので、若い方はインターネットのそういった支援団体の情報、Twitter でも結構、発信してるので、そこがあるのかなと思います。

これに関連して話ずれちゃうかもしれないんですけど、その口コミっていうところでは、ワクチン接種もそのルートを作る、大規模な、私たちも炊き出しで決して別にワクチン接種の会場を大規模に設けて、そこで一遍にやりましょうというよりは、ここで接種券を手に入れられるから、ここでシンプルに接種できるっていうルートができれば、それが口コミで広がって行って、あそこで支援団体に相談すればいいとか、あそこで行政の人が窓口出してるよとか、そういうので流れができていくと、お仕事探されてる方なんかは、その日ピンポイントで来るっていうのはすごく難しいので、そういった流れになるので、口コミもうまく利用したいなっていうところがあります。

仲佐 もう一つの質問なんですけど。例えばワクチンパスポートのようなものができ、それが無いといろいろなところに行けないとか、なった場合、特に路上生活者とかホームレスたちが家から、その場所から出ていけとかそういうことになる可能性があるんじゃないか。そういうことに対して、何らかの施策とか対策を考えてますかという質問なんです。大石さんかな、これいかがでしょうか。

大石 まずワクチンパスポート、ちょうど今週の月曜から自治体での発行受付がスタート

したので、まさにタイムリーなんですけれども。そのご指摘の点はわれわれとしても認識していきまして、今週から始まったワクチンパスポートについては、あくまで海外渡航のときに隔離措置とか免除するために必要な人に限りましょうということで、それを担保するために、申請のときにパスポートを持ってくるようにという形にしています。それで目的外使用みたいなものをブロックするみたいな仕組みは作っているところです。

一方、それ以外でも、ワクチン接種した人に限って何かをという動きも、可能性としてはあり得るのかなと思ってはいます。ただ、ワクチンは体質的に打てない方なども一定数いらっしゃるもので、必ず全員できるかというと、やりたくてもできない人がいるという性質のものなので、そこについて問題が発生してきたときには、必ずそういった方の視点を入れながら対応していく必要があるというのは、われわれとしても思っているところではあります。

仲佐 ありがとうございます。いろいろ、いろいろな話をさせていただき、今後のいろいろな課題が、少し見えてきたような気がしました。時間ももう 25 分になるので、最後に一言ずつ言い残したこととか、もしくは今回、こういうセミナーやってみての一言、お願いいたします。大石さんからお願いできますか。

大石 きょうは本当にありがとうございました。お二人の講師の方や、チャットでいろいろなアイデアをいただくことができまして、私自身すごく勉強になったところです。われわれの力不足の部分もあるんですけど、国から直接届けるのがなかなか難しい部分もいろいろあり、いろいろな方にご協力いただきながら、国から直接聞くよりも支援団体の方から聞いたほうが信頼できる情報になったりとか、あと、まさにロコミとかでワクチン接種が広がっていけばという願いもあったりするので、そういった形でぜひ、みんなで進めていければいいなと思いました。本日は本当にありがとうございました。

仲佐 武石さん、一言お願いします。

武石 ありがとうございます。そうですね。いろんな取り組みがあって、さっき、油井さんも全国の取り組み教えてくださって。今後、私としても支援団体の横のつながりをぜひ作っていききたいなと思っています。それから、もうずっと何度も言っているようですが、当事者の方の声っていう、当事者の方の思いを取り残さない、その方たちの声を無視して進むようなことにならないように、丁寧に進めていきたいなというところがあります。大石さんも先ほど、ワクチン接種をしないことで、しないという選択肢をしたことで何か支障が出るようなことがあってはならないってことは、もう既に認識してくださっているのはすごいありがたいなと思っています。1 回目のワクチンのアンケートで、しない、接種しないことで行政に差別されるんじゃないか心配ですというのは、おっしゃってる方が

おられましたので、ただ、そこは一つ安心できたので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

仲佐 油井さん、ひと言お願いします。

油井 今後、ワクチンが安定して供給されるようになるなどロジスティクスが整ってくればある程度解決できる部分は多いのかもしれませんが、それでもなお接種できない人が出てきたときに、どのような課題が残されるのかということは個人的に関心があります。接種にアクセスできない方に関しての自治体の問題意識の持ち方だけでなく、政治的な問題、マンパワーの問題、部署間の連携の問題など、各地域の行政課題が見えてくるのかなと思っています。

すべての人に保障されるはずのものが、それができていない人がいるというときに、それを享受できなかった人個人の問題で済ませてしまっただけでは、何も解決しません。そういったときに、享受できなかった人の事情を汲み取って社会に届け、どうすればよいのかを考えるということを繰り返していくことの大切さを今回のワクチン接種のことで改めて感じました。路上生活の方がワクチン接種にアクセスできなかったり、前向きになれなかったりということの背景には、それどころではないということもあると思います。今日、明日の食事をどう確保していくか、わずかな稼ぎを得るために少しでも仕事をしなければいけないとか、いわゆる「普通の生活」をしている人からすると見えていない暮らしや世界があると思うんです。

だからこそ、ワクチンを接種さえできればいいということだけでなく、これをきっかけにして路上で生活を送らなければならなくなってしまったような人の暮らしのことも考えていければいいのかなと思いました。長くなりました。ありがとうございました。

仲佐 どうも、お三人の方、ありがとうございました。本当にいろいろな話が聞けました。時間ももうすぐ終わりなので、第2部、これで終わりたいと思います。

岩本 ありがとうございました。それでは第2部をこれで終了させていただきます。最後に閉会あいさつを、プラン・インターナショナル・ジャパン理事長の池上さんからいただきます。池上さん、よろしくお願いいたします。

池上 ありがとうございます。3人のパネリストの皆さま、それから長時間、2時間以上に渡って、この夕食の時間ですのにずっと最後まで聞いてくださった参加者の皆さま、本当にありがとうございました。とても面白いといったらちょっと変ですけども、非常に幅の広いご意見を3人の方から伺えたと思います。本当にありがとうございます。池袋という一つの地域（どちらかと言えばミクロの世界）の視点から、東京と名古屋と、大阪と仙台の

ように、話の対象地域が拡大していきました。日本の中でも路上生活者の方が多いと言われる都市において、どういう路上生活者の方に対してどのように必要な情報提供が行われているのかを伺いました。ですので、当事者に対して、情報がどのように提供されているのか少し分かったような気がします。感染症に関して、これからセーフティーネットをどう、かけていったらいいのかという視点から、お三方のお話を聞いておりまして、それに関して申し上げると三つあったような気がします。

一つは、例えば市町村レベル、自治体と合同で協働しながら、必要な書類にどう対応するかという話、これ非常に具体的な話です。次は、もう少し一般的な話として、行政と支援団体、またはNGOとのネットワークを、つまり、政府とNGOとのネットワークをどう強化して行けるのかという点です。それから3番目は、これ特に感染症、COVID-19ということもありますけれども、正しい情報を分かりやすくどう伝えられるのかという点です。コミュニケーションをきちんとしないと、セーフティーネットの役割を果たしきれないのではないかなという気がいたしました。

COVID-19に関していえば、ワクチン接種は2回じゃなくて、もしかすると3回目が必要になるという話ですとか、また、COVID-19の次の感染症の話も指摘され始めています。そういうことを考えると、今の段階で考えておかなければならないこと、つまり、取り残されやすい人たちを取り残さないためには、どういうことが必要かを考えていくと、まず第一には、当事者のニーズの把握だと思われます。パネリストの皆さまは、それを十分やってらっしゃるんですけども、もう少し大きな規模でやっていく必要があります。そして厚労省にそれをぶつけていくという形で、当事者のニーズを明らかにすることだと思います。ニーズも一つ、二つということではなくて、多様だと思いますので、それらのニーズをきちんと数字として把握していくことが必要だという気がしたことが、第1点です。

それから第2点は、ちょっと話に出てこなかったんですけども、数は少ないと思いますが、路上生活者の中にも女性たちがいると思うんです。女性の方たちも生活困窮者でもありますし、この人たちに対してどういう支援が（男性の方とはちょっと違うニーズがあるのではないかなという気がするんです）必要なのか。ここについてのちょっと考慮というか配慮がもう少しあったらいいのかなという気がいたしました。もしかすると、もう既にやってらっしゃるかもしれませんが、今日の話の中には出てきていませんでした。

最後は、女性の路上生活者の方に対する支援や対応と、ちょっと共通する部分があると思うのですが、高齢者への対応の点です。路上生活者の方は男性、そして高齢者が多いということです。彼らは基本的に孤立している傾向があるので、コロナ感染者に関して言えば、一般的な予測よりも多くない、もしかすると、感染率は高くないのかもしれないと思うのです。でも、その本質的な問題は、社会や人とつながっていない、孤立している、分断されてるとい、そこだと思うんです。彼らに、どんなふうに支援ができるのかという点が、もう一つ、大きなポイントかなと思って伺いました。本日は本当に長い時間に渡り、パネリストの皆さまから、興味深い議論を伺うことができまして、本当にありがとうございました。お疲れさ

までした。

岩本 池上さん、ありがとうございました。それでは本日の、みんなのSDGs オンラインセミナーを閉会させていただきます。最後に一つお願いです。今、スクリーンに出ておりますが、今後の参考にさせていただくためにぜひアンケートにご協力をお願いいたします。では、本日はありがとうございました。失礼いたします。

(了)